

**webMethods と Intelligent Business
Operations 製品のアップグレード**

バージョン 9.8

2015 年 4 月

このマニュアルは、 webMethods Product Suite バージョン 9.8 およびそれ以降のリリースに適用されます。

このマニュアルに含まれる仕様は、変更されることがあります。変更内容については、それ以降のリリースノート、または次のエディションで報告されます。

Copyright © 2011-2015 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

Software AG およびすべての Software AG 製品の名前は、Software AG, Software AG USA Inc.、またはその子会社やサイゼンサーの商標または登録商標です。このマニュアルに記載されたその他の企業名および製品名は、それぞれの所有者の商標です。

Software AG とその子会社が所有する商標および特許に関する詳細情報は <http://softwareag.com/licenses> にあります。

本ソフトウェアはサードパーティ製品の一部を含む場合があります。サードパーティの著作権情報、ライセンス条項、追加の権利や制約については、「License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products」を参照してください。特定のサードパーティのライセンス条項や制約については、「License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products」の「Legal Notices」の E 項を参照してください。これらのドキュメントは、<http://softwareag.com/licenses> またはライセンス製品のルートインストールディレクトリから取得できる製品ドキュメントの一部として参照できます。

Software AG のライセンス許諾書によって特別に明示されていない限り、使用、コピー、転送、公開および開示は禁止されています。

ドキュメント ID: WEBM-UPG-98-20150415JA

目次

このマニュアルについて.....	9
表記規則.....	9
オンライン情報.....	9
このマニュアルで扱うアップグレード.....	11
このマニュアルで扱うアップグレード.....	12
リリースの番号付けの例外.....	13
アップグレードの実行に必要なマニュアル.....	13
アップグレードに成功するための重要な要件.....	15
重要なアップグレードの要件.....	16
製品の要件.....	16
API-Portal の要件.....	16
9.6 または 9.7 からのアップグレード: webMethods Broker の要件.....	17
CentraSite の要件.....	17
Integration Server クラスティングの要件.....	17
Mobile Administrator の要件.....	18
My webMethods Server の要件.....	18
新しいリリースへの製品のアップグレード.....	19
アップグレードに成功するための重要な要件について.....	20
異なるハードウェアやオペレーティングシステム間での移行.....	20
9.8 製品のインストール.....	20
アップグレードのための古い環境の準備.....	22
データベースの準備.....	22
製品への修正のインストール.....	22
古い API-Portal の準備.....	22
古い CentraSite の準備.....	23
古い Software AG Designer の準備.....	23
Integration Server 定義のエクスポート.....	23
CloudStreams のサーバ定義とプロジェクトのエクスポート.....	23
イベントバスコンソール設定のエクスポート.....	24
設定のエクスポート.....	24
古い Integration Server の準備.....	24
古い OneData の準備.....	26
古い Optimize の準備.....	26
古い製品のシャットダウン.....	27
データベースコンポーネントの移行.....	27
RDBMS のバックアップ.....	27
RDBMS のアップグレード.....	28
データベースコンポーネントに接続されている製品のシャットダウン.....	28
Trading Networks データベースコンポーネントを移行する前に.....	28

その他のデータベースコンポーネントの移行に関する特別な考慮事項.....	28
データスクリプトへの修正のインストール.....	29
データベースコンポーネント名.....	29
データベースコンポーネントの移行.....	29
サイドバイサイドアップグレードの完了.....	30
移行ユーティリティ.....	30
移行するデータのソースとしての圧縮ファイルの使用.....	31
My webMethods Server 用の圧縮ファイルの作成.....	31
その他すべての製品用の圧縮ファイルの作成.....	31
webMethods および IBO インフラストラクチャのアップグレードの完了.....	35
概要.....	36
データを移行する前に.....	36
インフラストラクチャ移行ユーティリティの実行.....	36
9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: Software AG Runtime NERV 設定の更新.....	37
最終的なアップグレードタスクの完了.....	37
EDA/NERV、Terracotta およびメッセージングのアップグレードの完了.....	39
EDA/NERV のアップグレードの完了.....	40
EDA/NERV 移行ユーティリティの実行.....	40
パスの更新.....	40
最終的なアップグレードタスクの完了.....	40
Terracotta のアップグレードの完了.....	40
Universal Messaging のアップグレードの完了.....	41
データを移行する前に.....	41
Universal Messaging 移行ユーティリティの実行.....	41
カスタムの移行の実行.....	41
インポートした設定を使用した移行.....	42
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する).....	42
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない).....	42
カスタム変更、データディレクトリ、ライセンスファイルの移行.....	42
最終的なアップグレードタスクの完了.....	43
webMethods Broker のアップグレードの完了.....	43
概要.....	43
Broker Server 9.6 の作成および古い記憶領域の使用.....	44
マルチホームマシンでの移行.....	45
最終的なアップグレードタスクの完了.....	45
My webMethods Server のアップグレードの完了.....	47
データを移行する前に.....	48
My webMethods Server 移行ユーティリティの実行.....	48
カスタムの移行の実行.....	48
インポートした設定を使用した移行.....	49
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する).....	50
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない).....	50
8.2 からのアップグレード: My webMethods Server インフラストラクチャの移行.....	50

9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: My webMethods Server インフラストラクチャの移行.....	50
My webMethods Server の初期化.....	51
ホスト名の更新.....	51
最終的なアップグレードタスクの完了.....	51
Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了.....	53
データを移行する前に.....	54
Integration Server 移行ユーティリティの実行.....	54
カスタムの移行の実行.....	54
インポートした設定を使用した移行.....	57
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する).....	57
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない).....	58
移行ユーティリティで実行されるその他のアクション.....	58
Integration Server のアップグレードの完了.....	59
フラットファイルパッケージのプロパティファイルの移行.....	59
Integration Server 起動ファイルのカスタマイズ.....	59
WSDL の更新.....	59
Integration Server 機能のデータベースコンポーネントへの接続.....	60
ホスト名の更新.....	60
9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: Integration Server NERV 設定の更新.....	60
最終的なアップグレードタスクの完了.....	60
ActiveTransfer のアップグレードの完了.....	60
CloudStreams のアップグレードの完了.....	61
Trading Networks のアップグレードの完了.....	62
アダプタのアップグレードの完了.....	62
webMethods Adapter for JDBC.....	62
webMethods Package for Microsoft .NET.....	63
webMethods PeopleSoft EnterpriseOne Adapter.....	63
webMethods SAP Adapter.....	63
eStandards モジュールのアップグレードの完了.....	64
webMethods FIX Module.....	64
webMethods SWIFTNet Module.....	64
Software AG Designer、ビジネスプロセスのランタイムおよび Blaze のアップグレードの完了.....	65
Software AG Designerデータの移行.....	66
データを移行する前に.....	66
ビジネスプロセスとビジネスルールプロジェクトの移行.....	66
タスクアプリケーションプロジェクトの移行.....	67
CloudStreams のサーバ定義とプロジェクトの移行.....	67
Integration Server 定義の移行.....	68
ビジネスプロセスのランタイムのアップグレードの完了.....	68
ホスト名の更新.....	69
Closed Loop Analytics の移行.....	69
最終的なアップグレードタスクの完了.....	69
Blaze ルールのアップグレードの完了.....	69

Optimize のアップグレードの完了.....	71
Terracotta Server Array の設定と起動.....	72
他の製品への接続の更新.....	72
Process Engine への接続の更新.....	72
Optimize Support パッケージへの接続の更新.....	72
Infrastructure Data Collector のアップグレードの完了.....	73
8.2 からのアップグレード: クラスタ化されている Integration Server の監視の再開.....	73
9.7 からのアップグレード: 4.1 以降の Terracotta Server Array の監視の開始.....	73
Java サービスラッパーへのカスタマイズの移行.....	73
Infrastructure Data Collector 移行ユーティリティの実行.....	74
データを移行する前に.....	74
カスタムの移行の実行.....	74
インポートした設定を使用した移行.....	75
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する).....	75
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない).....	75
Optimize 環境の展開.....	75
古い Optimize CCS 環境定義を再利用しない場合.....	75
古い Optimize CCS 環境定義を再利用する場合.....	76
Optimize 9.8 環境の展開.....	77
webMethods Broker から Universal Messaging への切り替え.....	77
最終的なアップグレードタスクの完了.....	78
Asset Build Environment および Deployer のアップグレードの完了.....	79
Asset Build Environment のアップグレードの完了.....	80
Deployer のアップグレードの完了.....	80
Deployer 設定、サーバエリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトを移行する前に.....	80
Integration Server 移行ユーティリティを使用したすべての Deployer 設定、サーバエリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトの移行.....	81
Deployer 移行機能を使用した Deployer 設定、サーバエリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトの移行.....	81
古い Deployer と Deployer 9.8 を起動してグローバル (デフォルト) 設定を移行する.....	81
サーバエリアスの移行 (接続情報).....	82
ターゲットグループの移行.....	82
展開プロジェクトの移行.....	83
最終的なアップグレードタスクの完了.....	83
Command Central のアップグレードの完了.....	85
データを移行する前に.....	86
Command Central インフラストラクチャの移行.....	86
Command Central 移行ユーティリティの実行.....	87
カスタムの移行の実行.....	87
インポートした設定を使用した移行.....	88
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する).....	88
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない).....	89
Command Central のアップグレードの完了.....	89

9.6 または 9.7 からのアップグレード: JAAS の信頼できる認証の復元.....	89
Command Central NERV 設定の更新.....	89
最終的なアップグレードタスクの完了.....	89
Platform Manager のアップグレードの完了.....	91
9.0 または 9.5 からのアップグレード: Platform Manager のアップグレードの完了.....	92
データを移行する前に.....	92
Platform Manager インフラストラクチャの移行.....	92
Platform Manager NERV 設定の更新.....	93
最終的なアップグレードタスクの完了.....	94
9.6 または 9.7 からのアップグレード: Platform Manager のアップグレードの完了.....	94
データを移行する前に.....	94
Platform Manager インフラストラクチャの移行.....	94
Platform Manager 移行ユーティリティの実行.....	95
カスタムの移行の実行.....	95
インポートした設定を使用した移行.....	96
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する).....	96
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない).....	96
Platform Manager のアップグレードの完了.....	96
JAAS の信頼できる認証の復元.....	96
Platform Manager NERV 設定の更新.....	97
最終的なアップグレードタスクの完了.....	97
API-Portal および CentraSite のアップグレードの完了.....	99
API-Portal のアップグレードの完了.....	100
CentraSite のアップグレードの完了.....	101
データを移行する前に.....	101
データの移行.....	101
アップグレードの完了.....	102
Mobile のアップグレードの完了.....	105
9.7 からのアップグレード: Mobile Designer のアップグレードの完了.....	106
Mobile Administrator のアップグレードの完了.....	106
概要.....	106
アップデータの実行と設定の確認.....	107
ビルドノードの更新.....	107
App Store Client の更新.....	107
最終的なアップグレードタスクの完了.....	108
OneData のアップグレードの完了.....	109
OneData 移行ユーティリティの実行.....	110
Java サービスラッパーへのカスタマイズの移行.....	110
8.4 からのアップグレード: 新しいログ記録方式の有効化.....	110
最終的なアップグレードタスクの完了.....	110
Presto のアップグレードの完了.....	111
概要.....	112

Presto リポジトリの設定.....	112
埋め込みの Derby データベースを使用する場合のリポジトリの設定.....	112
その他のデータベースを使用する場合のリポジトリの設定.....	112
Presto の設定の更新と拡張機能のコピー.....	113
外部設定ディレクトリを使用していた場合の更新方法.....	113
外部設定ディレクトリを使用していなかった場合の更新方法.....	113
3.7 または 3.8 からのアップグレード: Integrated MashZone Server と RTBS Server の設定、および MashZone フィードのアップグレード.....	114
アップグレードコマンドの実行.....	114
3.6 または 3.7 からのアップグレード: RAQL クエリーを使用するマッシュアップの更新.....	115
スナップショットリポジトリ接続情報の更新.....	115
最終的なアップグレードタスクの完了.....	116
すべての製品の最終的なアップグレードタスクの完了、およびトラブルシューティング.....	117
全製品の最終的なアップグレードタスクの完了.....	118
トラブルシューティング.....	118

このマニュアルについて

このマニュアルでは、webMethods および Intelligent Business Operations 製品を、8.2、9.0、9.5、9.6、9.7 から 9.8 にアップグレードする方法について説明します。

表記規則

規則	[説明]
太字	画面上の要素を表します。
縮小フォント	folder.subfolder:service という規則を使用して webMethods Integration Server 上のサービスの保存場所を表します。
大文字	キーボードのキーを表します。同時に押す必要があるキーは、プラス記号 (+) で結んで表記されます。
斜体	独自の状況または環境に固有の値を指定する必要がある変数を表します。本文中で最初に出現する新しい用語を表します。
モノスペース フォント	入力する必要があるテキストまたはシステムから表示されるメッセージを表します。
{ }	選択肢のセットを表します。ここから 1 つ選択する必要があります。中カッコの内側にある情報のみを入力します。{ } 記号は入力しません。
	構文行で相互排他的な 2 つの選択肢を区切ります。いずれかの選択肢を入力します。 記号は入力しません。
[]	1 つ以上のオプションを表します。大カッコの内側にある情報のみを入力します。[] 記号は入力しません。
の動作	同じタイプの複数のオプションを入力できることを表します。情報のみを入力します。省略記号 (...) は入力しません。

オンライン情報

Software AG マニュアルの Web サイト

マニュアルは、Software AG マニュアルの Web サイト (<http://documentation.softwareag.com>) で入手できます。このサイトでは Empower クレデンシャルが必要です。Empower クレデンシャルがない場合は、TECHcommunity Web サイトを使用する必要があります。

Software AG Empower 製品のサポート Web サイト

製品情報は、Software AG Empower 製品のサポート Web サイト (<https://empower.softwareag.com>) で入手できます。

機能および拡張機能に関するリクエストの送信、製品の可用性に関する情報の取得、製品のダウンロードを実行するには、Products に移動します。

修正に関する情報を取得し、早期警告、技術論文、Knowledge Base の記事を読むには、[Knowledge Center](#) に移動します

Software AG TECHcommunity

マニュアルおよびその他の技術情報は、Software AG TECHcommunity Web サイト (<http://techcommunity.softwareag.com>) で入手できます。以下の操作を実行できます。

- TECHcommunity クレデンシャルを持っている場合は、製品マニュアルにアクセスできます。TECHcommunity クレデンシャルがない場合は、登録し、関心事の領域として [マニュアル] を指定する必要があります。
- 記事、コードサンプル、デモ、チュートリアルにアクセスする
- Software AG の専門家によって承認されたオンライン掲示板フォーラムを使用して、質問したり、ベストプラクティスを話し合ったり、他の顧客が Software AG のテクノロジーをどのように使用しているかを学んだりすることが可能です。
- オープンスタンダードや Web テクノロジーを取り扱う外部 Web サイトにリンクできます。

1 このマニュアルで扱うアップグレード

■ このマニュアルで扱うアップグレード	12
■ リリースの番号付けの例外	13
■ アップグレードの実行に必要なマニュアル	13

このマニュアルで扱うアップグレード

このマニュアルでは、サイドバイサイド手順を使用して、webMethods 製品と Intelligent Business Operations 製品をリリース 8.2、9.0、9.5、9.6 または 9.7 からリリース 9.8 にアップグレードする方法について説明します。

以下のアップグレードは、このマニュアルで扱いません。代わりに、記載の情報ソースを参照してください。

アップグレード	情報
8.2 以前のリリースから	『Supported Upgrade Paths』を参照してください。
ApplinX	ApplinX のマニュアルを参照してください。
webMethods Broker から Universal Messaging	Migrating from webMethods Broker to webMethods Universal Messaging を参照してください。
Content Service Platform	Software AGGlobal Consulting Services までご連絡ください。
MashZone または Process Performance Manager	MashZone または Process Performance Manager のマニュアルを参照してください。
仮想マシン上の Mobile Administrator (このマニュアルでは、物理マシン上の Mobile Administrator をアップグレードする方法について説明します)	Mobile Administrator を仮想マシンからアンインストールし (『Installing webMethods and Intelligent Business Operations Productsold_release』を参照)、Mobile Administrator 9.8 をインストールします (『Installing webMethods and Intelligent Business Operations Products 9.8』を参照)。
3.6 以前の Presto リリース	Software AGGlobal Consulting Services までご連絡ください。
Terracotta Server Array (webMethods 製品と併用しない場合、あるいは、セットアップが単一サーバ、または、アクティブサーバとミラーサーバで構成されるミラーグループではない場合)	Terracotta BigMemory Max のマニュアルを参照してください。

アップグレード	情報
Universal Messaging (webMethods 製品と併用しない場合)	Universal Messaging のマニュアルを参照してください。

リリースの番号付けの例外

以下の製品は、一般的な webMethods および IBO のリリースの番号付けに従っていません。

製品	リリースの番号付け
OneData	webMethods 8.2 で OneData のリリース番号は 8.4 でした。
Presto	IBO 9.6、9.7 および 9.8 で Presto のリリース番号はそれぞれ 3.7、3.8 および 3.9 でした。
Terracotta	IBO 9.0、9.5、9.6、9.7 および 9.8 で Terracotta のリリース番号はそれぞれ 3.7.4、3.7.6、3.7.6、4.1.4 および 4.3 でした。

アップグレードの実行に必要なマニュアル

このマニュアルのアップグレードを実行するには、下記のマニュアルが常に必要になります。

- Using the Software AG Installer (2015 年 4 月リリース)
- Installing webMethods and Intelligent Business Operations Products 9.8
- Using the Software AG Update Manager

アップグレードする製品によっては、このマニュアルのアップグレードを実行するために下記の 9.8 のマニュアルおよびその他のマニュアルが必要になることがあります。

- webMethods BPM Task Development Help
- Using Blaze Rules with BPM and CAF
- CentraSite のマニュアル
- webMethods Deployer User's Guide
- webMethods Integration Server Administrator's Guide、webMethods Service Development Help、webMethods Integration Server Clustering Guide
- Administering webMethods Optimize、Configuring BAM
- Presto のマニュアル

- Getting Started with the webMethods Product Suite and Terracotta および Terracotta BigMemory Max のマニュアル

2 アップグレードに成功するための重要な要件

■ 重要なアップグレードの要件	16
■ 製品の要件	16

重要なアップグレードの要件

重要: これらの要件に合致しない場合は、予期しない結果になり、インストールやデータの破損が起きることがあります。 Software AG実稼動環境のアップグレードを実施する前に、制御されたテスト環境でアップグレードを行い、システムが適切に動作するかどうかを検証することを強くお勧めします。

- この章では、9.8 製品を新規のインストールディレクトリにインストールし、古い環境をアップグレード用に準備し、古い製品をシャットダウンし、古いデータベースコンポーネントをバックアップしてから 9.8 に移行する方法について説明します。これらのタスクは、この章で示すと通りの順序で実行する必要があります。
- 一部の製品では、追加タスクを実行して製品のアップグレードを完了する必要があります。そのようなタスクについては、後続の章で説明します。これらの章で説明するタスクは、このマニュアルで示すと通りの章およびタスクの順序で実行する必要があります。
- すべての製品について、このマニュアルの最後の章で説明するすべてのタスクは、その他のすべてのタスクを完了した後で実行する必要があります。
- 特定のタスクが指定のアップグレードパスのみで必要であると明記されていない限り、このマニュアルで説明するタスクはすべてのアップグレードパスについて実行する必要があります。
- 製品のアップグレードは、最新サービスパックから実行する必要があります。たとえば、リリース 8.2 で製品の最新リリースが 8.2 SP3 である場合、その製品は 8.2 SP3 からアップグレードする必要があります。8.2 SP2 や 8.2 SP1 からアップグレードすることはできません。
- webMethods 9.7 および 9.8 では、webMethods Broker のリリース番号は 9.6 のままです。webMethods 9.6 で提供されているものと同じリリースとなっています。リリースが同じ場合であっても、webMethods Broker についてこの章およびこのマニュアルで説明されているタスクを実行する必要があります。

製品の要件

API-Portal の要件

API-Portal をアップグレードするには、以下の機能特権が必要です。

- ライセンス、ユーザおよびドキュメントの管理
- ユーザ管理設定
- データベース管理

API-Portal 管理者に問い合わせ、ユーザ管理コンポーネント (<http://host:port/umc>) にログオンし、ユーザ管理ページに移動し、自分のユーザ名をクリックします。次に、自分を API Administrator グループに追加するか、または [Functional Privileges] タブに移動して前述の特権を自分に割り当てます。

9.6 または 9.7 からのアップグレード: webMethods Broker の要件

webMethods 9.7 および 9.8 では、webMethods Broker のリリース番号は 9.6 のままです。webMethods 9.6 で提供されているものと同じリリースとなっています。webMethods 9.6 または 9.7 リリースから既存の webMethods Broker 9.6 がマシンにインストールされている場合は、9.8 製品で使用を継続できます。ただし、この章および[43 ページの「webMethods Broker のアップグレードの完了」](#)で説明する webMethods Broker 向けのすべての手順に従い、すべてのタスクを実行する必要があります。

古いマシンとは異なるオペレーティングシステムを実行するマシンや、異なるハードウェアを持つマシンにアップグレードする場合、または、webMethods Broker を同じインストールディレクトリで他の 9.8 製品と共存させる場合は、webMethods 9.8 リリースから webMethods Broker 9.6 をインストールする必要があります。古いマシンと同じかそれ以降のオペレーティングシステムを実行し、同じハードウェア (たとえば両方とも AMD を搭載している、両方とも Intel を搭載している、など) を装備するマシンにインストールできます。この章および[43 ページの「webMethods Broker のアップグレードの完了」](#)で説明する webMethods Broker 向けのすべての手順に従い、すべてのタスクを実行してください。

Broker Server 9.6 は、webMethods Broker 9.5、9.0、8.2 コマンドラインユーティリティ、C、C#、Java、JMS 用 Broker クライアント API、JMS 用クライアントと互換性があります。Broker Server 9.5、9.0、および 8.2 は、webMethods Broker 9.6 コマンドラインユーティリティ、C、C#、Java 用 Broker クライアント API、My webMethods の webMethods Broker ユーザーインタフェースと互換性があります。

CentraSite の要件

CentraSite Application Server Tier および CentraSite Registry Repository を異なるマシンにインストールするか、または同じディレクトリに異なるタイミングでインストールする場合は、まず Registry Repository をインストールする必要があります。

CentraSite 9.8 を古い CentraSite と同じマシンにインストールする場合は、これら両方の製品が異なるポートを使用する場合でも、IPC と共有メモリリソースが競合するため、両方を同時に実行することはできません。

Integration Server クラスタリングの要件

Integration Server のクラスタをアップグレードする場合、Software AG では以下の手順に従うことをお勧めします。

1. 9.8 Integration Server の一致するセットをインストールします。たとえば、IS1_old、IS2_old および IS3_old という 3 つの古い Integration Server でクラスタが構成されており、外部のロードバランサを使用してクライアントの要求を分散する場合、IS1_new、IS2_new および IS3_new をインストールします。
2. クラスタ内の各 Integration Server に対して、[53 ページの「Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了」](#)の手順を実行します。
3. IS1_old をシャットダウンします。

4. 53 ページの「Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了」の手順を使用して、IS1_old データを IS1_new に移行し、IS1_new 起動ファイルをカスタマイズします。
 5. IS2_old および IS3_old をシャットダウンします。
 6. IS1_new に対して、以下の手順を実行します。
 - a. IS1_new を起動します。
 - b. IS1_old が Terracotta ベースのクラスタリングソリューションを使用するように設定されていない場合は、Terracotta ベースのクラスタリングソリューションを使用するように IS1_new を設定します。IS1_new がクライアントの要求を処理していることを確認します。手順については、『webMethods Integration Server Clustering Guide 9.8』を参照してください。
- 重要:** Coherence は、リリース 9.0 でサポートされなくなりました。
- c. WSDL を更新し、機能をデータベースコンポーネントに接続し、IS_new でセントラルユーザ管理を設定します (53 ページの「Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了」を参照してください)。
7. 手順 4 および 6 を IS2_new に対して、その後 IS3_new に対して繰り返します。

Mobile Administrator の要件

Mobile Administrator 9.8 では、以前のリリースと異なるライセンスが必要です。Software AG から Mobile Administrator 9.8 ライセンスファイルを入手してください。

My webMethods Server の要件

古いリリースで、環境変数 WM_HOME を使用して、インストールのホストマシンのグローバルパスにデフォルトの My webMethods Server インストールを指定した可能性があります。古いリリースと同じマシンに新しいリリースをインストールする場合、この変数の存在により問題が発生することがあります。したがって、グローバルパスからこの環境変数を削除する必要があります。My webMethods Server 9.8 のインストール後に、この環境変数を再定義しないでください。

My webMethods Server 移行ユーティリティを使用すれば、古い My webMethods Server インストール内の特定のサーバインスタンスを、新しい My webMethods Server インストールに移行できます。クラスタ内の各マシンに、1 つの My webMethods Server 9.8 のみをインストールするだけですみます。

3 新しいリリースへの製品のアップグレード

■ アップグレードに成功するための重要な要件について	20
■ 異なるハードウェアやオペレーティングシステム間での移行	20
■ 9.8 製品のインストール	20
■ アップグレードのための古い環境の準備	22
■ 古い製品のシャットダウン	27
■ データベースコンポーネントの移行	27
■ サイドバイサイドアップグレードの完了	30

アップグレードに成功するための重要な要件について

このマニュアルで説明するタスクを実行する前に、15 ページの「アップグレードに成功するための重要な要件」の記載内容のすべてを細心の注意を払ってお読みください。

異なるハードウェアやオペレーティングシステム間での移行

Software AG は、同じハードウェアとオペレーティングシステムを持つマシン間での移行をテストしています。Integration Server では、異なるハードウェアまたは異なるオペレーティングシステムを持つマシン間での移行もテストされています。ただし、その他の製品の場合、異なるハードウェアまたはオペレーティングシステムを持つマシン間の移行では (特に、一方のマシンが Windows で、もう一方が Windows 以外である場合)、予期しない結果になる可能性があります。

9.8 製品のインストール

古いリリースと同じマシンにインストールする場合、古い製品が実行中であっても、通常は、古い製品によって使用されているポートを新しい製品に割り当てることができます。同じポートを割り当てると、新しいリリースを使い始める際に、アセットとクライアントでポート値を編集する必要がありません。

『Using the Software AG Installer』(2015 年 4 月リリース) および『Installing webMethods and Intelligent Business Operations Products 9.8』の手順、および下記のガイドラインに従って新規のインストールディレクトリに 9.8 製品をインストールします。

1. インストールディレクトリには、新しい Software AG インストールディレクトリを指定します。
2. 製品ツリーで、インストールする 9.8 製品を選択します。また [Database Configuration] と [Update Manager] を選択します。

メモ: webMethods 8.2 では、Blaze Advisor が Blaze デザイン用ツールです。9.0 では、このデザイン用ツールは Software AG Designer への Blaze プラグインです。9.5 以降では、互換性の理由から、Blaze プラグインは Eclipse 3.6 をベースにした完全独立型のワークベンチとして提供され、Eclipse 4.x をベースにした Software AG Designer 9.5 以降とは分離されます。

3. 製品パネルについては、『Installing webMethods and Intelligent Business Operations Products 9.8』の手順、および下記のガイドラインに従います。

製品	ガイドライン
ActiveTransfer Server	データベース接続を ActiveTransfer Server 9.8 で使用する ActiveTransfer データベースコンポーネントにポイントします。
webMethods Broker	Broker Server 設定を作成しないことを選択します。

製品	ガイドライン
Integration Server	データベース接続を Integration Server 9.8 で使用する ISInternal データベースコンポーネントにポイントします。
My webMethods Server	My webMethods Server インスタンスを作成しないことを選択します。 メモ: この手順では、古いサーバインスタンスを後で移行します。また、この手順では、My webMethods Server 9.8 で使用する My webMethodsServer データベースコンポーネントを移行して、そのデータベースコンポーネントを後でポイントします。
OneData	以前にメモに書きとめたポート、リポジトリ ID、リポジトリ名、データベースコンポーネント接続の値を入力します。OneData 9.8 で使用する OneData データベースコンポーネントをデータベース接続がポイントしていることを確認します。 メモ: ポート値を再利用すると、古い OneData の Web サービスクライアントは OneData 9.8 にアクセスするために URL を変更する必要がなくなります。
Trading Networks	データベース接続を Trading Networks 9.8 で使用する TradingNetworks データベースコンポーネントにポイントします。
Universal Messaging	古い Universal Messaging インストールにあるサーバインスタンスと同一の名前を入力して、そのサーバインスタンスの IP アドレスとポートにバインドします。データディレクトリを新しいインストール内の場所にポイントします (つまり、古いデータディレクトリをポイントしません)。 メモ: データディレクトリのデフォルトの場所を受け入れると、後で自動的に移行されます。異なる場所を使用する場合、移行を手動で実行する必要があります。

4. インストールが完了した後、Windows システムにインストールして、製品を Windows サービスとしてインストールした場合、サービスの開始はデフォルトで [自動] になります。このサービスを [手動] に設定します。UNIX システムにインストールして、デーモンを自動的に起動するスクリプトがある場合、このスクリプトを無効にします。
5. 『Installing webMethods and Intelligent Business Operations Products 9.8』の手順に従って、9.8 製品のインストールを完了します。これには、最新の製品修正のインストールが含まれます。修正のインストール手順については、『Using the Software AG Update Manager』および修正の Readme ファイルを参照してください。

メモ: 9.6 または 9.7 からのアップグレード: 『Installing webMethods and Intelligent Business Operations Products 9.8』では、インストール後に追加の Integration Server インスタンスを作成できることについて説明しています。ただし、Integration Server 移行ユーティリティを使用して、古いインスタンスから 9.8 インスタンスを作成することもできます (53 ページの「Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了」を参照)。

重要: この時点で、つまり、データベースコンポーネントまたはデータを移行する前に、9.8 製品を起動しないでください。このマニュアルで指示があるまで、9.8 製品を起動しないでください。起動すると、データベースコンポーネントが壊れる可能性があります。

アップグレードのための古い環境の準備

データベースの準備

一部の製品 (CentraSite、Integration Server、Monitor、Optimize、Trading Networks など) には、データを製品データベースコンポーネントからアーカイブまたは消去するための機能があります。先に製品データベースコンポーネントをアーカイブまたは消去しておくことで、製品データベースコンポーネントのバックアップや移行に必要な時間を減らすことができます。

製品への修正のインストール

古い API-Portal、CentraSite、Infrastructure Data Collector、My webMethods Server、Optimize、Process Engine に最新の修正をインストールします。修正のインストール手順については、『Using the Software AG Update Manager』および修正の Readme ファイルを参照してください。製品に修正をインストールしたら、製品を起動します。

古い API-Portal の準備

1. 古い API-Portal Cloud Controller を起動します。
2. 古い API-Portal がクラスタ化された高可用性設定でインストールされている場合は、すべてのノードが実行中で、ZooKeeper アンサンブルにアクセス可能であることを確認します。
3. 次のコマンドを実行して、各ノードを親ノードに登録します。

```
acc> add node logical_node_name IP_address_or_host_name [@port]
user_name password
```

4. 次のコマンドを実行します。

```
acc> startall
```

5. 次のコマンドを実行して、古いマスターテナントをファイルにバックアップします。

```
acc> set acc config backup.restore.tenant.app.types =
com.aris.umcadmin.y-umcadmin-run-prod
acc> set acc config backup.restore.tenant.app.type.names = umc
acc> backup tenant master to full_path_to_backup_file
username=your_user_name password=your_password
```

6. 古い API-Portal のテナントごとに、API-Portal 9.8 内にテナントを作成する必要があります。次のコマンドを実行して、古い API-Portal 内のすべてのテナントをリストします。

```
acc> list tenants
```

7. 次のコマンドを実行して、古いテナントごとに API および関連データ、ユーザデータ、API-Portal ドキュメント記憶領域データ (すべてのアクセス権限を含む)、コラボレーションデータをファイルにバックアップします。各ファイルにはファイル拡張子 `.acb` が追加されます。

重要: このバックアップ処理中はテナントで作業できないことを API-Portal ユーザに知らせてください。

```
acc> set acc config backup.restore.tenant.app.types =
com.aris.umcadmin.y-umcadmin-run-prod, com.aris.modeling.components.
y-server-run-prod, com.aris.adsadmin.y-adsadmin-run-prod,
com.aris.runnables.ecp-run-prod
acc> set acc config backup.restore.tenant.app.type.names = umc, abs, ads, ecp
acc> backup tenant tenant_name to full_path_to_backup_file
username=your_user_name password=your_password
```

8. API-Portal 9.8 を古い API-Portal と同じマシンにインストールした場合は、以下のコマンドを実行します。

```
acc> stopall
```

古い CentraSite の準備

1. CentraSite Control の設定をデフォルトから変更した場合は、設定をメモに書きとめ、新しい CentraSite インストールで同様の変更を加えることができますようにします。
2. 8.2 からのアップグレード: ApplinX オブジェクトタイプの内部構造を定義するメタモデルは、リリース 9.0 で変更され、古いメタモデルとの互換性がありません。CentraSite 9.8 では、古い ApplinX オブジェクトタイプに基づくオブジェクトタイプインスタンスの使用がサポートされません。CentraSite 9.8 では ApplinX オブジェクトタイプまたはインスタンスを古い製品リリースからインポートすることはできません。また、古いインスタンスを新しいメタモデルに移行する手順はありません。CentraSite 9.8 で古い製品リリースからの ApplinX オブジェクトタイプインスタンスを使用する場合は、CentraSite 9.8 のインストール後にインスタンスを手動で再作成する必要があります。すべての ApplinX オブジェクトタイプインスタンスの定義をメモに書きとめます。

古い Software AG Designer の準備

Integration Server 定義のエクスポート

1. 古い Software AG Designer で、[**Window**] > [**Preferences**] を選択します。[**Preferences**] ダイアログボックスにある左側のナビゲーションバーで、[**Software AG**] > [**Integration Server**] を選択します。
2. [**エクスポート**] をクリックして、ダイアログボックスを完了します。Software AG Designer により、拡張子 `.properties` でファイルが保存されます。

CloudStreams のサーバ定義とプロジェクトのエクスポート

1. CloudStreams のサーバ定義をエクスポートするには、[**Window**] > [**Preferences**] に移動します。[**設定**] ダイアログボックスにある左側のナビゲーションバーで、[**Software AG**] >

[CloudStreamsServers] を選択します。[エクスポート] をクリックして、ダイアログボックスを完了します。Software AG Designer により、拡張子 .properties でファイルが保存されます。

2. [CloudStreams 開発] パースペクティブを開きます。CloudStreams Governance リストで**エクスポートする CloudStreams Governance プロジェクト** を右クリックし、[Export] をクリックして、ダイアログボックスを完了します。
3. 前の手順を繰り返して CloudStreams プロバイダプロジェクトをエクスポートします。

イベントバスコンソール設定のエクスポート

1. 古い Software AG Designer で、[File] > [Export] ウィザードに移動します。[Select] パネルで、[Run/Debug] > [Launch Configurations] を選択して、[Next] をクリックします。
2. ツリーで [Event Bus Console] 設定を選択します。[Location] フィールドで、エクスポート先のディレクトリを指定します。Software AG Designer により、拡張子 .launch で各ファイルが保存されます。

設定のエクスポート

設定を Software AG Designer 9.8 に移行する場合は、古い Software AG Designer からエクスポートして Software AG Designer 9.8 にインポートします。設定をエクスポートするには、以下の手順に従います。

1. 古い Software AG Designer で、[File] > [Export] ウィザードに移動します。[Select] パネルで、[General] > [Preferences] を選択して、[Next] をクリックします。
2. [To preference file] フィールドに、設定のエクスポート先とするファイルの名前を指定します。Software AG Designer により、拡張子 .epf でファイルが保存されます。

古い Integration Server の準備

1. webMethods Broker を使用しており、新しい Broker Monitor が実行中になっている場合、これをシャットダウンします。古い Broker Monitor を再起動し、次に古い Broker Server を起動します。
2. 古い Integration Server を起動します。
3. すべてのトリガーのドキュメント抽出を一時停止して、以下の手順に従って、保証付きの全メッセージの処理が完了したことを確認します。
 - a. Integration Server Administrator を開き、古い Integration Server をポイントします。
 - b. [パッケージ] > [管理] に移動します。[ロックされているエレメントの表示]、[エレメントのアンロック] の順にクリックし、トリガーのすべてのエレメントを選択して、[選択したエレメントをアンロック] をクリックします。
 - c. 8.2 または 9.0 からのアップグレード: [設定] > [メッセージング] > [Broker/ローカルトリガーの管理] ページに移動します。[個別トリガーコントロール] 領域で、[ドキュメント抽出] にある [アクティブ] 列の [一括編集] をクリックし、[抽出の状態] を [一時停止中] に設定します。すべてのトリガーの [パーシストされたキューカウント] フィールドに 0 が表示されるまで、ページを更新します。
 - d. 9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: [設定] > [メッセージング] > [webMethods メッセージングトリガーの管理] ページに移動します。[個別トリガーコントロール] 領域で、[ドキュメント抽出] に

ある [アクティブ] 列の [一括編集] をクリックし、[抽出の状態] を [一時停止中] に設定します。すべてのトリガーの [現在のキューカウント] フィールドに 0 が表示されるまで、ページを更新します。

4. webMethods Broker を使用している場合、以下の手順に従って、クライアントサイドキュー内の全送信 Broker メッセージが送信されたことを確認します。
 - a. Integration Server が Broker に接続されていることを確認します。
 - b. 8.2、9.0 または 9.5 からのアップグレード: [設定] > [リソース] > [ストアの設定] ページに移動します。[送信ドキュメントストア] 領域の [送信ストアにある現在のドキュメント] フィールドに 0 が表示されていることを確認します。
 - c. 9.6 または 9.7 からのアップグレード: [設定] > [メッセージング] > [webMethods メッセージングの設定] ページに移動します。Broker 接続エイリアスに対して、[CSQ カウント] フィールドが 0 になっていることを確認します。

メモ: [CSQ カウント] フィールドには、[設定] > [リソース] > [ストアの設定] ページの [送信ストアにある現在のドキュメント] フィールドと同じ情報が表示されます。したがって、[CSQ カウント] フィールドのみを確認します。

5. 9.6 または 9.7 からのアップグレード: Universal Messaging を使用している場合、以下の手順に従って、クライアントサイドキュー内の全送信 Universal Messaging メッセージが送信されたことを確認します。
 - a. Integration Server が、webMethods メッセージングプロバイダとして機能している各 Universal Messaging サーバに接続されていることを確認します。
 - b. [設定] > [メッセージング] > [webMethods メッセージングの設定] ページに移動します。Universal Messaging 接続エイリアスに対して、[CSQ カウント] フィールドが 0 になっていることを確認します。
6. 以下の手順に従って、JMS クライアントサイドキュー内の全送信メッセージが送信されたことを確認します。
 - a. Integration Server が JMS プロバイダに接続されていることを確認します。
 - b. [設定] > [メッセージング] > [JMS 設定] ページに移動します。[JMS 接続エイリアスの定義] 領域で、すべての JMS 接続エイリアスに対して、[CSQ カウント] フィールドが 0 になっていることを確認します。
7. ビジネスプロセスをアップグレードしようとしていて、揮発性の移行ドキュメントを使用するビジネスプロセスモデルがあり、これらのモデルのプロセスインスタンスが [開始] の状態になっている場合、アップグレード前に、この [開始] 状態のプロセスのインスタンスを完了するか、一時停止にします。

重要: アップグレード前に [開始] 状態のプロセスインスタンスを完了または一時停止できないと、データが失われることがあります。

メモ: 保証付きの移行ドキュメントを使用しているモデルの場合は、そのモデルのプロセスインスタンスが [開始] 状態になっていても、アップグレードの前に完了または一時停止を行う必要はありません。

古い OneData の準備

1. 古い OneData で、[Home] > [Administer] > [Job Center] ページに移動します。[Filter] ページで、各ジョブタイプに対して [Active] または [Pending Active] でフィルタします。ジョブがこれらのいずれかの状態である場合は、ジョブを終了するか、完了するまで待機します。
2. ファイルシステムで、old_Software AG_directory¥profiles¥ODE¥configuration¥tomcat¥conf ディレクトリに移動し、context.xml ファイルを開きます。スキーマユーザ名の先頭にある接続プリフィックスをメモに書きとめます (たとえば、メタデータスキーマユーザ名 dev2_md の接続プリフィックスは dev2 です)。また、メタデータ、作業領域、リリース領域のデータベーススキーマのデータベース接続パラメータもメモに書きとめます。
3. 以下の手順に従って、ポート番号を書きとめます。
 - a. 8.4 からのアップグレード: old_Software AG_directory¥profiles¥ODE¥configuration¥tomcat ¥conf ディレクトリに移動し、server.xml ファイルを開きます。ポート属性の HTTP および HTTPS ポート番号をそれぞれ Default CTP HTTP Connector および Default CTP HTTPS Connector ファイルから書きとめます。
 - b. 9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: old_Software AG_directory¥profiles ¥ODE¥configuration¥com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリに移動します。com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties および com.softwareag.catalina.connector.https.pid-port.properties ファイルを開き、ポート番号を書きとめます。

古い Optimize の準備

1. CCS (Central Configuration System) 環境定義を再利用したい場合は、環境を XML ファイルにエクスポートします。My webMethods で、[管理] > [システム全体] > [環境] > [環境の定義] ページに移動します。環境の隣にあるチェックボックスを選択し、[環境のエクスポート] をクリックし、エクスポートする環境のファイル名と場所を指定します。
2. 8.2 からのアップグレード: Oracle Coherence を使用してクラスタ化された Integration Server がある場合、代わりに Terracotta ベースのクラスタリングソリューションを使用するように、このマニュアルの後半でこれらを再設定することになります。次のように、この変更の準備を整えます。
 - a. クラスタ化された Integration Server を監視している場合は、これらの監視を停止します。
 - b. クラスタ化された Integration Server に対して KPI がある場合、[アプリケーション] > [管理] > [分析] > [インフラストラクチャコンポーネント] > [監視中のコンポーネント] ページに移動します。[監視中のコンポーネント] リストで、[IS Cluster] をクリックします。[選択された KPI] ボックスにリストされている KPI をメモに書きとめ、KPI を削除して [保存] をクリックします。

メモ: クラスタ化された Integration Server から収集した KPI データは、Optimize 9.8 では使用できません。
3. 新しいインストールで Analytic Engine をクラスタ化する場合は、Terracotta Server Array が必要です。計画に関する情報については、『Getting Started with the webMethods Product Suite and

Terracotta 9.8』、『Configuring BAM 9.8』および Terracotta BigMemory Max 4.1 のマニュアルを参照してください。

古い製品のシャットダウン

古い製品をシャットダウンします。UNIX システムの場合は、古いリリース用の製品マニュアルの手順を使用します。Windows システムの場合:

製品の実行方法	シャットダウンを実行する場所
[サービス]	Windows の [サービス] ウィンドウ。サービスは Software AG product release として表示されます。
アプリケーション	Windows の [スタート] メニュー。アプリケーションは、[Software AG] > [サーバの停止] > product として表示されます。

CentraSite をアップグレードしており、新旧の CentraSite が同じマシン上にある場合:

- 8.2 からのアップグレード: CentraSite Apache および Tomcat Server サービスを停止して、すべての古い Application Server Tier をシャットダウンします。
- 9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: Software AG Runtime サービスを停止して、すべての古い Application Server Tier をシャットダウンします。
- Registry Repository サービスを停止して、古い Registry Repository をシャットダウンします。

EntireX をアップグレードしている場合は、すべての Broker、RPC Server、EntireX ライブラリを使用する顧客アプリケーションもシャットダウンします。手順については、古いリリース用の製品マニュアルを参照してください。

Mobile Administrator をアップグレードする場合は、`/etc/init.d/appfresh-mobile stop` コマンドを実行して停止します。

My webMethods Server のクラスタをアップグレードしている場合、すべてのクラスタノードをシャットダウンします。クラスタは、同じ MywebMethodsServer データベースコンポーネントをポイントする複数のノードとして定義されます。ノードは 1 つの My webMethods Server インストール内の異なるマシンやサーバインスタンスの My webMethods Server インストールにすることができます。

データベースコンポーネントの移行

RDBMS のバックアップ

お使いの RDBMS のベンダーによる手順を使用して、使用しているデータベースコンポーネントが含まれる RDBMS をバックアップします。

My webMethods Server をアップグレードする場合は、MywebMethodsServer データベースコンポーネントをバックアップするときに同時に、My webMethods Server インストールディレクトリをバックアップ

ブします。問題が発生した場合は、このバックアップのデータを使用してデータベースを復元する必要があります。

RDBMS のアップグレード

使用している RDBMS を『webMethods and Intelligent Business Operations System Requirements 9.8』と照らし合わせて確認します。使用している RDBMS のバージョンが 9.8 製品でサポートされていない場合、この章の手順を続行する前に、サポートされている RDBMS バージョンにアップグレードする必要があります。

データベースコンポーネントに接続されている製品のシャットダウン

データベースコンポーネントに接続するすべての古い Integration Server、My webMethods Server、OneData、Optimize および Presto インスタンスをシャットダウンしていない場合は、シャットダウンします。

Trading Networks データベースコンポーネントを移行する前に

1. データエディタを使用して、TradingNetworksArchive データベースコンポーネントの ARCHIVE_WORKTABLE テーブルから、すべてのデータを削除します。
2. Trading Networks データベースコンポーネントに対してカスタムインデックスを作成した場合は、これらのカスタムインデックスが、次の手順で Trading Networks 移行スクリプトを実行するとき作成されるインデックスと競合するかどうかを確認します。競合する場合は、カスタムインデックスを破棄してください。移行スクリプトは、9.8_Software AG_directory¥common¥db¥scripts ¥RDBMS¥tradingnetworks¥migrate ディレクトリ内の以下のディレクトリにあります。

古いリリース	ディレクトリ
8.2	¥39_40、40_to_45 および 45_to_50
9.0	¥40_to_45 および 45_to_50
9.5 または 9.6	¥45_to_50
9.7	¥50_to_55

その他のデータベースコンポーネントの移行に関する特別な考慮事項

- ビジネスプロセスを使用している場合は、処理中、完了、失敗などのビジネスプロセスインスタンスに関する情報が保存されます。この保存された情報は、ビジネスプロセスのランタイムデータと呼ばれます。webMethods および IBO 9.8 で、古いインストールからの処理中のプロセスインスタンスの

実行を完了しない場合、あるいは完了または失敗したプロセスインスタンスを再サブミットしない場合は、ビジネスプロセスのランタイムデータを移行しないでください (以下の表を参照してください)。

- Optimize で DB2 RDBMS を使用している場合、データベースコンポーネント移行コマンドで指定する URL には特別な考慮事項があります。以下の点に従う必要があります。
 - URL のスキーマ名はすべて大文字で指定します。
 - オプション CreateDefaultPackage=true, ReplacePackage=true および DynamicSections=3000 を指定します。この設定は、同じスキーマまたはデータベースにあるすべてのデータベースコンポーネントに影響します。

データスクリプトへの修正のインストール

Software AG Update Manager を使用して、古いデータベーススクリプトに最新の修正をインストールします。データベーススクリプトの名前は、DC_old_release_number_DBS_Fixlatest_fix_number の命名規則に従います。修正のインストール手順については、『Using the Software AG Update Manager』および修正の Readme ファイルを参照してください。

データベースコンポーネント名

移行コマンドで使用するデータベースコンポーネント名は次のとおりです。

移行するデータ	指定する database_component 値
ActiveTransfer Server	ActiveTransfer
ビジネスプロセスのランタイム	ProcessAudit、ProcessEngine、Archive、Staging、Reporting
ビジネスルール	BusinessRules
Integration Server	ISInternal、ISCoreAudit、CrossReference、DocumentHistory、DistributedLocking
My webMethods Server	MywebMethodsServer
OneData	OneDataMetadata、OneDataReleaseArea、OneDataWorkArea
Optimize	Analysis、ProcessTracker、ProcessAudit、DataPurge
Trading Networks	TradingNetworks、TradingNetworksArchive

データベースコンポーネントの移行

重要: データベースコンポーネントを 9.8 に移行すると、これらのコンポーネントは古い環境で使用できなくなります。

Database Configuration 9.8 をインストールしたマシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開き、9.8_Software AG_directory¥common¥db¥bin ディレクトリに移動して、以下のコマンドを実行してデータベースコンポーネントを移行します。各コマンドを実行した後に、9.8_Software AG_directory¥common¥db¥logs ディレクトリにあるログファイル dcc_yyyymmddhhmmss を確認します。

- すべてのデータベースコンポーネントを移行する場合は、次のコマンドを実行します。

```
dbConfigurator.{bat|sh} -a migrate -d {oracle|sqlserver|db2|luw}
-c all -v latest -l db_server_URL -u existing_db_user -p password
```

Oracle または DB2 RDBMS を使用しており、デフォルトのテーブルスペースを使用していない場合は、data_tspace_name および -tsindex index_tspace_name パラメータも指定します。

メモ: 通常は (すべての製品を所有しないため) すべてのデータベースコンポーネントを使用しないため、使用しないデータベースコンポーネントの移行に失敗したことを通知するメッセージがログファイルに記録されます。このメッセージは無視できます。

- すべてのデータベースコンポーネントを移行しない場合は、移行する必要のある各データベースコンポーネントについて次のコマンドを実行します。

```
dbConfigurator.{bat|sh} -a migrate -d {oracle|sqlserver|db2|luw}
-c database_component_name -v latest -l db_server_URL
-u existing_db_user -p password
```

サイドバイサイドアップグレードの完了

サイドバイサイドアップグレード手順を完了するには、後続の製品固有の章の手順を実行します。多くの製品では、これらの章で実行する手順に、古いインストールから新しいインストールにデータを自動的に移行する移行ユーティリティの実行が含まれています。以下の節では、移行ユーティリティの一般的な動作について説明します。一般的な動作に対する例外がある場合は、製品固有の章に記載しています。

移行ユーティリティ

製品によっては、何も情報を入力せずに移行ユーティリティが実行されます。移行するデータを選択したり以下のようなオプションが用意されていたりする製品の移行ユーティリティもあります。

- カスタムの移行では、移行するデータを選択できます。ユーティリティに表示される一連のプロンプトで設定を入力し、選択したデータが移行されます。設定をエクスポートして、他のアップグレードで使用することができます。
- インポートした設定を使用して、移行を実行できます。インポートする設定は、カスタムの移行から、または製品インストールで指定したデフォルトの移行からエクスポートした設定から取得できます。デフォルトの移行の設定については、製品固有の章で説明されています。

メモ: 移行ユーティリティを実行する場合、古いインストールへのフルパスを指定し、場合によっては 9.8 インストールへのパスも指定します。古い製品または 9.8 製品のインストール時に、インストールディレ

クトリとしてシンボリックリンクを指定した場合、移行ユーティリティに指定するパスは、インストール時に指定したシンボリックリンクと同じパスにする必要があります。

移行ユーティリティで一部のデータの移行が失敗した場合、次のデータの移行を続けるか、移行を中断するかを尋ねられます。中断を選択すると、ユーティリティは終了します。この場合、9.8 製品インストールは元の状態に戻りません。問題を解決して、ユーティリティを再実行できます。

移行ユーティリティにより、移行の詳細情報がコマンドウィンドウと 9.8_Software AG_directory¥install¥logs ディレクトリの migrationLog.txt ファイルに書き込まれます。デフォルトでは、このユーティリティにより、INFO、ERROR、および FATAL メッセージがログに書き込まれます。製品の移行のログレベルを DEBUG に引き上げる場合は、log4j.properties ファイルが含まれる製品ディレクトリ (たとえば 9.8_Software AG_directory¥product¥bin¥migrate または ¥migrate¥bin ディレクトリ) に移動して、テキストエディタでファイルを開きます。log4j.logger.Migration プロパティを DEBUG、MigrationFile に設定してから、ファイルを保存して閉じます。

移行するデータのソースとしての圧縮ファイルの使用

新旧の製品インストールが異なるマシン上にある場合、移行ユーティリティで古い製品インストールの圧縮ファイルをデータのソースとして使用して移行できます。

My webMethods Server 用の圧縮ファイルの作成

1. 9.8_Software AG_directory/MWS/bin/migrate ディレクトリに移動して、zip-mws.{bat|sh} ファイルを 8.2_Software AG_directory/MWS/bin ディレクトリまたは 9.0_or_later_Software AG_directory/MWS/bin/migrate ディレクトリにコピーします。

メモ: 古い My webMethods Server に修正をインストールした場合、このファイルが既に存在する可能性があります。

2. 古いマシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、コピーしたファイルが含まれるディレクトリに移動し、コマンド zip-mws.{bat|sh} を実行します。mws.zip という名前の圧縮ファイルが old_Software AG_directory/MWS/migrate-zip ディレクトリに作成されます。
3. mws.zip ファイルを、My webMethods Server をホストする 9.8 マシンの任意のディレクトリにコピーします。

重要: FTP を使用してコピーする場合は、バイナリファイル転送モード/タイプを使用してください。他のモード/タイプを使用すると、圧縮ファイルが壊れることがあります。

その他すべての製品用の圧縮ファイルの作成

以降の手順では、Java Archive ツールを使用して圧縮ファイルを作成します。古い製品インストールをホストするマシンで JAVA_HOME および PATH システム変数に Java Archive ツールの場所を指定します。ツールは Software AG_directory¥jvm¥jvm¥bin ディレクトリにあります。

メモ: 一部のシステムでは、下位レベルの jvm ディレクトリ名に、¥jvm¥jvm160_32、¥jvm¥jvm170、¥jvm¥jvm_64 など、追加的な情報が含まれます。

製品用の圧縮ファイルを作成するには、製品の古いマシンに移動し、コマンドウィンドウまたはシェルを開きます。以下の表に示されたディレクトリに移動し、表に示されたコマンドを入力します。複数のコマンドが記載されている場合は、各コマンドで同じ圧縮ファイル名を使用します。

製品	移動先ディレクトリ	実行するコマンド
Command Central	古い Command Central を含む Software AG ディレクトリ	<pre>jar cfM Zip_file_name.zip common¥conf jar ufM Zip_file_name.zip profiles¥CCE jar ufM Zip_file_name.zip install¥products</pre>
EDA/NERV	古い EDA/NERV を含む Software AG ディレクトリ	<pre>jar cfM Zip_file_name.zip install¥products jar ufM Zip_file_name.zip common¥conf jar ufM Zip_file_name.zip common¥EventTypeStore jar ufM Zip_file_name.zip common¥nerv¥bundles</pre> <p>common¥nerv¥bundles ディレクトリは、古いリリースで NERV バンドルを展開した場合にのみ存在します。</p> <p>NERV バンドルまたは Event Type Store をデフォルト以外の場所に展開した場合は、バンドルを圧縮ファイルに追加して、上記のコマンドに示されたファイル構造を保持してください。</p>
インフラストラクチャ	古い Software AG Runtime を含む Software AG ディレクトリ	<pre>jar cfM Zip_file_name.zip common¥conf install ¥products profiles¥CTP</pre> <p>「profiles¥CTP: no such file or directory」というメッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視できます。</p>
Infrastructure Data Collector	古い Infrastructure Data Collector ディレクトリ	<pre>jar cfM Zip_file_name.zip common¥conf install ¥products profiles¥InfraDC</pre>
Integration Server	古い Integration Server ディレクトリ	<pre>jar cfM Zip_file_name.zip *</pre>
OneData	古い OneData を含む Software AG ディレクトリ	<pre>jar cfM Zip_file_name.zip profiles/ODE/bin/ onedata/config/*</pre>
9.6 または 9.7 からのアップグレー	古い Platform Manager を含む	<pre>jar cfM Zip_file_name.zip common¥conf jar ufM Zip_file_name.zip profiles¥SPM jar ufM Zip_file_name.zip install¥products</pre>

製品	移動先ディレクトリ	実行するコマンド
ド: Platform Manager	Software AG ディレクトリ	
Universal Messaging	古い Universal Messaging ディレクトリ	<code>jar cfM Zip_file_name.zip server lib</code>

製品の圧縮ファイルを、製品をホストする 9.8 マシンの任意のディレクトリにコピーします。

重要: FTP を使用してコピーする場合は、バイナリファイル転送モード/タイプを使用してください。他のモード/タイプを使用すると、圧縮ファイルが壊れることがあります。

4 webMethods および IBO インフラストラクチャのアップグレードの完了

■ 概要	36
■ データを移行する前に	36
■ インフラストラクチャ移行ユーティリティの実行	36
■ 9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: Software AG Runtime NERV 設定の更新	37
■ 最終的なアップグレードタスクの完了	37

概要

インフラストラクチャコンポーネントは、多くの製品と共に自動的にインストールされます (ただしすべての製品ではありません)。この章で参照されるファイルがマシンに存在するかどうかを判断します。存在する場合は、この章のタスクを完了します。

重要: 同じベンダーの JVM を使用している場合、移行ユーティリティは、Windows システムから別の Windows システムへの移行、および UNIX システムから別の UNIX システムへの移行をサポートします。移行ユーティリティは、あるオペレーティングシステムから異なるオペレーティングシステムへの移行をサポートしません (たとえば、Windows システムから UNIX システムへの移行、またはこの逆方向の移行をサポートしません)。webMethods の 9.8 リリースおよび Intelligent Business Operations でサポートされるオペレーティングシステムのリストは、『webMethods and Intelligent Business Operations System Requirements』を参照してください。

データを移行する前に

1. 新旧のインストールにある全製品がシャットダウンしていることを確認します。
2. 9.8 インフラストラクチャに最新の修正をインストールします。修正名は、wMFix.OSGI.Migration のようになります。手順については、『Using the Software AG Update Manager』および修正の Readme ファイルを参照してください。

インフラストラクチャ移行ユーティリティの実行

インフラストラクチャユーティリティは、以下の内容を移行します。

- インフラストラクチャの設定
- Software AG Runtime の設定 (存在する場合)
- 8.2 からのアップグレード: JAAS およびポートの設定、およびユーザーリポジトリ
- 9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: デバッグ、JAAS、JMX、ポート、セキュリティ、シングルサインオン、ウォッチドッグ、Web Services Stack の各設定、ジャーナルログ設定、ユーザーリポジトリ、パスワードストア
- 9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: ユーザ、グループおよび役割

インフラストラクチャ移行ユーティリティは、何も情報を入力せずに実行されます。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

移行ユーティリティの動作の概要については、[30 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。

1. 9.8 マシンで、コマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥common ¥migrate¥osgi¥bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
migrate. {bat|sh} {-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Software AG_directory|Zip_file} -
destDir full_path_to_9.8_Software AG_directory -silent true
```

- 古いインストールディレクトリと 9.8 のインストールディレクトリの両方で、Software AG_directory¥profiles¥CTP ディレクトリが表示される場合、9.8_Software AG_directory¥profiles ¥CTP¥bin¥migrate ディレクトリに移動して、同じコマンドを再度実行します。

9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: Software AG Runtime NERV 設定の更新

9.8_Software AG_directory¥profiles¥CTP¥configuration ¥com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリに移動して、com.softwareag.platform.eda.nerv.properties ファイルを開きます。JMS プロバイダの参照が 9.8 JMS プロバイダをポイントしており、ファイルシステムのパスが 9.8 インストールをポイントしていることを確認します。そうでない場合は、それらを更新します。

9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: 古いインストール内の同じファイルを開きます。前述のパス値を除き、2 つのファイル内のいずれかの値が異なる場合は、古いほうの値を 9.8 の値に上書きコピーします。

最終的なアップグレードタスクの完了

[118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」](#)の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

5 EDA/NERV、Terracotta およびメッセージングのアップグレードの完了

■ EDA/NERV のアップグレードの完了	40
■ Terracotta のアップグレードの完了	40
■ Universal Messaging のアップグレードの完了	41
■ webMethods Broker のアップグレードの完了	43

EDA/NERV のアップグレードの完了

EDA/NERV 移行ユーティリティの実行

EDA/NERV 移行ユーティリティは、以下の項目を移行します。

- 9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: NERV を使用する Software AG Designer イベントバスコンソール接続設定
- 9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: NERV 設定バンドル (展開した場合)
- Event Type Store

EDA/NERV 移行ユーティリティは、何も情報を入力せずに実行されます。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

移行ユーティリティの動作の概要については、[30 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。

9.8 マシンで、コマンドウィンドウまたはシェルを開いて、`9.8_Software AG_directory¥common ¥migrate¥EDA¥bin` ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
migrate.{bat|sh}
{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Software AG_directory|Zip_file}
-destDir full_path_to_9.8_Software AG_directory
-importFile 9.8_Software AG_directory¥common¥migrate¥EDA
¥bin¥migrate{822|901|951|960|970}sbs.dat
-silent true
```

パスの更新

`9.8_Software AG_directory¥common¥conf` ディレクトリに移動

し、`com.softwareag.eda.nerv.properties` ファイルを開きます。JMS プロバイダの参照が 9.8 JMS プロバイダをポイントしていることを確認し、更新ファイルシステムのパスが 9.8 インストールをポイントしていることを確認します。そうでない場合は、それらを更新します。

最終的なアップグレードタスクの完了

[118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」](#)の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

Terracotta のアップグレードの完了

この節では、単一サーバ、または、アクティブサーバとミラーサーバで構成されるミラーグループを持つ Terracotta Server Array のアップグレードを完了する方法について説明します。その他のすべての設定については、Terracotta BigMemory Max 4.3 のマニュアルを参照してください。

『Getting Started with the webMethods Product Suite and Terracotta』の手順に従って、4.1.4 以降のライセンスキーと tc-config.xml ファイルをインストールします。

単一サーバを使用している場合は、古い Terracotta Server Array をシャットダウンし、4.3 Terracotta Server Array を起動します。

アクティブサーバとミラーサーバで構成されるミラーグループを使用している場合は、古いミラーサーバをシャットダウンしてから、古いアクティブサーバをシャットダウンします。アクティブサーバ 4.3 を起動してからミラーサーバ 4.3 を起動します。

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

Universal Messaging のアップグレードの完了

データを移行する前に

すべての古い Universal Messaging サーバインスタンスがシャットダウンしていることを確認します。9.8 インストールでサーバインスタンスを実行している場合（たとえば、デフォルトサーバインスタンス umserver）、これらのサーバが同様にシャットダウンしていることを確認してください。

Universal Messaging 移行ユーティリティの実行

Universal Messaging 移行ユーティリティは、9.8 のサーバインスタンス、または古いインストール内の各サーバインスタンスを作成し、古いインスタンスのデータディレクトリとライセンスファイルを 9.8 サーバインスタンスに移行します。

移行ユーティリティの動作の概要については、30 ページの「移行ユーティリティ」を参照してください。Universal Messaging 移行ユーティリティでは、デフォルトの移行を提供しません。

カスタムの移行の実行

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥UniversalMessaging¥tools¥migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate. {bat | sh} を実行します。
2. 以下のいずれかへの完全パスを尋ねられます。
 - 古い Universal Messaging インストール（たとえば、C:¥old_Software AG_directory¥nirvana または UniversalMessaging、あるいは /opt/old_Software AG_directory/nirvana または UniversalMessaging）
 - 以前に作成した圧縮ファイル
3. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「N」と入力します。
4. 古い各サーバインスタンスを移行するかどうかを尋ねられます。インスタンスをアプリケーションとサービスのどちらとして実行しているのかをユーティリティが判断できない場合、この情報も同様に尋ねられます。

古いサーバインスタンスのデータディレクトリまたはライセンスファイルがデフォルトの場所（それぞれ、`Software AG_directory¥nirvana` または `UniversalMessaging¥server¥server_instance¥data` と `Software AG_directory¥nirvana` または `UniversalMessaging¥server¥server_instance`）にない場合、またはユーティリティがデータディレクトリまたはライセンスファイルがある場所を特定できない場合、この手順の後半で説明するように、移行ユーティリティの完了後に手動で移行を行う必要があります。

サーバインスタンスが既に 9.8 インストールに存在する場合、ユーティリティは次の操作を実行します。

- 9.8 インスタンスが古いインスタンスと同じ名前になっている場合、ユーティリティで、古いインスタンスを 9.8 インスタンスに上書き移行するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力すると、ユーティリティは、古いインスタンスを移行する前に、9.8 インスタンスを `9.8_Software AG_directory¥UniversalMessaging¥migrationbackup` ディレクトリにバックアップします。
- 9.8 インスタンスが古いインスタンスと異なる名前になっている場合、ユーティリティはこの 9.8 インスタンスを無視します。

5. 設定をエクスポートするかどうかを尋ねられます。このセッションから設定をインポートすることでその他の移行を実行する場合は、「Y」を入力します。それ以外の場合は、「N」を入力します。

インポートした設定を使用した移行

インポートする設定は、カスタムの移行からエクスポートした設定から取得します。これらの設定は、カスタムの移行を実行した `9.8_Software AG_directory¥UniversalMessaging¥tools¥migrate` ディレクトリ内の `migrate.dat` という名前のファイルに保存されます。データの移行先にする Universal Messaging 9.8 インストールのホストマシンで、任意のディレクトリに `migrate.dat` ファイルをコピーします。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する)

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、`9.8_Software AG_directory¥UniversalMessaging¥tools¥migrate` ディレクトリに移動し、コマンド `migrate. {bat|sh}` を実行します。
2. 古い Universal Messaging インストールまたは以前に作成した圧縮ファイルへの完全パスを尋ねられます。
3. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「Y」と入力し、プロンプトが表示されたら、`migrate.dat` ファイルの完全パスを指定します。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない)

9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、`9.8_Software AG_directory¥UniversalMessaging¥tools¥migrate` ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate.{bat|sh}
{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Universal Messaging_directory|Zip_file}
-importFile full_path_to_migrate.dat -silent true
```

カスタム変更、データディレクトリ、ライセンスファイルの移行

1. リリース 9.8 では、nserver.conf および nserverdaemon.conf ファイルが Server_Common.conf という単一ファイルに結合されました。古いサーバインスタンスの nserver.conf または nserverdaemon.conf ファイルをカスタマイズした場合、対応する 9.8 サーバインスタンスの Server_Common.conf ファイルに対して、同じ変更を行ってください。
2. 古いサーバインスタンスのデータディレクトリが Software AG Installer で指定されたデフォルトの場所がない場合、移行ユーティリティはデータディレクトリを移行していません。古いサーバインスタンスから 9.8 サーバインスタンスにデータディレクトリをコピーします。データディレクトリのデフォルトの場所は、9.8_Software AG_directory¥UniversalMessaging¥server ¥server_instance¥data ディレクトリです。そのディレクトリにある新しいサーバインスタンスの Server_Common.conf ファイルをポイントするようにファイルを編集します。
3. 古いサーバインスタンスのライセンスファイルが Software AG Installer によって配置されたデフォルトの場所から変更または移動された場合、移行ユーティリティはライセンスファイルを移行していません。古いサーバインスタンスから 9.8 サーバインスタンスにライセンスファイルをコピーします。ライセンスファイルのデフォルトの場所は、9.8_Software AG_directory¥UniversalMessaging ¥server¥server_instance¥data ディレクトリです。そのディレクトリにある新しいサーバインスタンスの Server_Common.conf ファイルをポイントするようにファイルを編集します。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

webMethods Broker のアップグレードの完了

概要

8.2、9.0 または 9.5 からのアップグレード: 44 ページの「Broker Server 9.6 の作成および古い記憶領域の使用」の手順に従います。

9.6 または 9.7 からのアップグレード:

- webMethods Broker 9.6 を webMethods 9.6 または 9.7 リリースから引き続き使用している場合は、Broker クライアント (Integration Server 9.8 を含む) を古い webMethods Broker 9.6 インストールにポイントさせます。
- webMethods Broker 9.6 を webMethods 9.8 リリースからインストールした場合は、44 ページの「Broker Server 9.6 の作成および古い記憶領域の使用」の手順に従います。

webMethods Broker 9.6 を古いマシンとはオペレーティングシステムまたはハードウェアが異なるマシンにインストールした場合、または、SUSE Linux Enterprise Server や Red Hat Enterprise Linux を実行する IBM System z マシンにインストールした場合は、新しい記憶領域を作成し、webMethods Broker エクスポート/インポートユーティリティを使用して Broker Server 設定情報を古い記憶領域から新しい記憶領域に移行します。手順については、『Administering webMethods Broker 9.6』を参照してください。

webMethods Broker から Universal Messaging に移行する場合は、『Migrating from webMethods Broker to webMethods Universal Messaging 9.8』を参照してください。

Broker Server 9.6 の作成および古い記憶領域の使用

1. 古いデータディレクトリをバックアップします。
2. old_Software AG_directory¥Broker¥bin ディレクトリに移動し、古い awbrokermon.cfg ファイルをバックアップします。
3. awbrokermon.cfg ファイルを開き、dataDir パラメータで指定された古いデータディレクトリの場所を書きとめます。
4. 古い Broker Server を停止し、old_Software AG_directory¥Broker¥bin ディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
server_config remove full_path_to_old_data_directory
```

Broker Monitor 設定から Broker Server を削除するかどうか尋ねられたら、「Y」を入力します。

5. データディレクトリを新しい場所にコピーする必要がある場合 (新旧の webMethods Broker インストールが異なるマシン上にあるためなど)、以下の手順に従います。

- a. 古いデータディレクトリを新しい場所にコピーします。記憶領域ファイルがデータディレクトリの外部にあった場合は (たとえば .stor および .data ファイル)、それらのファイルもコピーします。

- b. 9.8 マシンで、コマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥Broker¥bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。古い記憶領域ファイルもコピーした場合は、各ファイルの qs_map_file パラメータを指定します。

```
server_config relocate full_path_to_new_data_directory
[-qs_map_file full_path_to_old_filefull_path_to_new_file]
```

6. Broker Server 9.6 を作成します。9.8 マシンで、コマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥Broker¥bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。Broker Server 9.6 の詳細が Broker Monitor 9.6 起動設定に自動的に追加されます。Broker Server 9.6 用のホスト名およびポート番号が古い Broker Server のものと同じであることを確認します。

```
server_config add full_path_to_old_data_directory -k 9.6_license_file
-p old_release_port
```

メモ: マルチホームマシンで移行している場合は、ポートバインドエラーによりコマンドが失敗します。詳細については、[45 ページの「マルチホームマシンでの移行」](#)を参照してください。

7. Broker Server 9.6 が稼働中であることを次のように確認します。

システム	ステップ
Windows	a. Windows の [サービス] ウィンドウを開いて、[Software AG Broker Server 9.6 (ポート番号)] サービスのステータスが [開始] になっていることを確認します。

システム	ステップ
	<ul style="list-style-type: none"> b. サービスを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[実行ファイルのパス] フィールドが 9.6 の awbroker ファイルをポイントしていることを確認します。
UNIX	<ul style="list-style-type: none"> a. コマンド <code>ps -ef grep awbroker</code> を実行します。このコマンドにより、実行中のすべての Broker プロセスと、その実行ファイルへのパスが出力されます。出力テキストに <code>full_path_to_9.8_Software AG_directory/Broker/bin/awbroker -d full_path_to_old_data_directory</code> のような行が表示されていることを確認します。 b. awbroker プロセスが実行中であり、かつ 9.6 の awbroker ファイルから実行されていることを確認します。

マルチホームマシンでの移行

マルチホームマシン (複数のネットワークインタフェースと IP アドレスを持つマシン) で移行を行う場合、Broker の `server_config add` コマンドでは古いリリースから移行された Broker Server 設定が無視され、特定の IP バインドが無視されて、IP アドレス 0.0.0.0 へのバインドが試行されます。ポートバインドエラーでコマンドが失敗した場合は、以下の手順に従います。

1. 9.8_Software AG_directory/Broker/bin ディレクトリに移動し、awbrokermon.cfg ファイルを開いて、以下のエントリを追加します。

```
server-6849.datadir=full_path_to_data_directory
server-6849.exec=Software AG_directory/Broker/bin/awbroker
server-6849.version=9.6
server-6849.port=6849
```

2. 9.8_Software AG_directory/Broker/data/awbrokerrelease_number/default ディレクトリに移動し、awbroker.cfg ファイルを開いて、以下のエントリを追加します。

```
executable=9.8_Software AG_directory/Broker/bin/awbroker
version=9.6
```

3. Broker Monitor を起動し、broker_status コマンドを使用して、Broker Server が実行されており、統計情報の履歴が含まれていることを確認します。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「[全製品の最終的なアップグレードタスクの完了](#)」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

6 My webMethods Server のアップグレードの完了

■ データを移行する前に	48
■ My webMethods Server 移行ユーティリティの実行	48
■ 8.2 からのアップグレード: My webMethods Server インフラストラクチャの移行	50
■ 9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: My webMethods Server インフラストラクチャの移行	50
■ My webMethods Server の初期化	51
■ ホスト名の更新	51
■ 最終的なアップグレードタスクの完了	51

データを移行する前に

1. 古い My webMethods Server をシャットダウンしていることを確認します。
2. My webMethods Server のクラスタをアップグレードしている場合、クラスタ内の My webMethods Server のデータを移行する前に、すべてのクラスタノードがシャットダウンしていることを確認してください。クラスタは、同じ MywebMethodsServer データベースコンポーネントをポイントする複数のノードとして定義されます。ノードは 1 つの My webMethods Server インストール内の異なるマシンやサーバインスタンスの My webMethods Server インストールにすることができます。

My webMethods Server 移行ユーティリティの実行

My webMethods Server 移行ユーティリティは、古いインストール内のサーバインスタンスを新しいインストールに移行します。

移行ユーティリティの動作の概要については、[30 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。次のような例外があります。

- My webMethods Server 移行ユーティリティでは、デフォルトの移行を提供しません。
- My webMethods Server の log4j.properties ファイルは、9.8_Software AG_directory¥MWS ¥tools¥migrate¥resources ディレクトリにあります。

カスタムの移行の実行

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥MWS¥bin ¥migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate. {bat|sh} を実行します。
2. 以下のいずれかへの完全パスを尋ねられます。
 - a. 古い My webMethods Server インストールを含む Software AG ディレクトリ (たとえば、C: ¥old_Software AG_directory または /opt/old_Software AG_directory)
 - b. 以前に作成した圧縮ファイル
3. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「N」と入力します。
4. 移行するサーバインスタンスを尋ねられます。インストールに複数のサーバインスタンスがある場合は、インスタンスごとに個別に尋ねられます。
 - a. 古い My webMethods Server インストールのサーバインスタンスの 1 つを移行するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力します。

メモ: サーバインスタンス名が既に My webMethods Server 9.8 インストールディレクトリに存在する場合は、古いサーバインスタンスの移行を続行できるように 9.8 サーバインスタンスを削除することも、このインスタンスの移行をスキップすることもできます。

- b. 移行後のサーバインスタンスで使用する MywebMethodsServer データベースコンポーネントを尋ねられます。実稼動データベースのコピーを使用する場合は、ユーティリティでは、データベース URL、ユーザ名、およびパスワードの入力を指示するプロンプトが表示されます。

メモ: データが含まれていない新しいデータベースは使用できません。

5. このセッションの設定をエクスポートするかどうかを尋ねられます。このセッションから設定をインポートすることでその他の移行を実行する場合は、「Y」を入力します。それ以外の場合は、「N」を入力します。
6. 移行を開始するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力すると、選択したデータが移行されます。移行が正常に完了すると、ユーティリティで次の処理も実行されます。
- My webMethods Server 9.8 で使用されない古い設定ファイルを削除し、My webMethods Server 9.8 で使用されない古いプロパティを 9.8 設定ファイルから削除します。
 - 古い My webMethods Server で埋め込みデータベースを使用していた場合は、データベーステーブルを古い My webMethods Server から My webMethods Server 9.8 にコピーし、テーブルを新しい形式に変換します。

7. 8.2 からのアップグレード: CAF を使用していて、1 つ以上の CAF アプリケーション用にカスタムの Jetty 設定を 8.2 mws-web.xml ファイルに追加していた場合、移行ユーティリティは、これらのファイルを移行しています。しかし、これらのファイル内の WebApplicationContext クラスのスキーマと名前は、9.0 以降で変更されているため、カスタムの Jetty 設定は手動で移行する必要があります。

CAF アプリケーションごとに、8.2 および 9.8 WEB-INF ディレクトリ内の 8.2 mws-web.xml ファイルおよび 9.8 jetty-mws.xml ファイルを開きます。8.2 のカスタム Jetty 設定を 9.8 ファイルの Jetty セクションにコピーします。次にコピーした設定値を、WebApplicationContext クラス形式の新しいスキーマと名前を設定します。以下の例では、Jetty 設定 maxFormContentSize の 8.2 での設定形式と 9.8 で設定する形式を示します。カスタム Jetty 設定では、その他の部分も同様の形式で指定します。

My webMethods Server 8.2 でのサンプル設定:

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!DOCTYPE Configure PUBLIC "-//Mort Bay Consulting//DTD Configure//EN"
"http://jetty.mortbay.org/configure.dtd">
<Configure class="com.webmethods.portal.webapp.jetty6.MwsWebApplicationContext">
<Set name="maxFormContentSize">500000</Set>
</Configure>
```

My webMethods Server 9.8 でのサンプル設定:

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!DOCTYPE Configure PUBLIC "-//Jetty//Configure//EN"
"http://www.eclipse.org/jetty/configure.dtd">
<Configure class="org.eclipse.jetty.webapp.WebApplicationContext">
<Set name="maxFormContentSize">500000</Set>
</Configure>
```

インポートした設定を使用した移行

インポートする設定は、カスタムの移行からエクスポートした設定から取得します。これらの設定は、9.8_Software AG_directory\MWS\bin\migrate ディレクトリ内の migrate.dat というファイルに

保存されます。データの移行先にする My webMethods Server 9.8 インストールのホストマシンで、任意のディレクトリに migrate.dat ファイルをコピーします。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する)

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory%MWS%bin %migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate. {bat|sh} を実行します。
2. 古い Software AG インストールディレクトリまたは以前に作成した圧縮ファイルへの完全パスを尋ねられます。
3. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「Y」と入力し、プロンプトが表示されたら、migrate.dat ファイルの完全パスを指定します。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない)

9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory%MWS%bin %migrate ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate.{bat|sh}
-srcDir full_path_to_{old_Software
AG_directory|Zip file}
-importFile full_path_to_migrate.dat
-silent true
```

8.2 からのアップグレード: My webMethods Server インフラストラクチャの移行

1. 古い MWS%server%default%bin ディレクトリに移動し、server.properties{bat.sh} ファイルを開きます。
2. JMX ポート設定を移行します。com.softwareag.jmx.connector.pidport.properties ファイル (9.8 の SoftwareAG_directory%profiles%MWS_instance_name%configuration%com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリ内) を開きます。古い server.properties{bat.sh} ファイル内の値が 9.8 ファイル内の対応する値と異なる場合は、古いほうの値を 9.8 の値に上書きコピーします。
3. Java のパラメータをカスタマイズしている場合は、古い server.properties{bat.sh} ファイルから 9.8 の custom_wrapper.conf ファイルにカスタマイズをコピーします。9.8 の custom_wrapper ファイルは、9.8 の SoftwareAG_directory%profiles%MWS_instance_name%configuration ディレクトリにあります。

9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: My webMethods Server インフラストラクチャの移行

サーバインスタンスごとに、以下の手順に従います。

1. JMX ポート設定を移行します。古い環境と 9.8 の環境で、SoftwareAG_directory¥profiles ¥MWS_instance_name¥configuration¥com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリ内の com.softwareag.jmx.connector.pidport.properties ファイルを開きます。2 つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.8 の値に上書きコピーします。
2. 古い My webMethods Server Java サービスラッパーをカスタマイズしている場合は、古い wrapper_conf または custom_wrapper.conf ファイルから 9.8 の custom_wrapper.conf ファイルにカスタマイズをコピーします。ファイルは、SoftwareAG_directory¥profiles ¥MWS_instance_name¥configuration ディレクトリにあります。

My webMethods Server の初期化

1. 古い My webMethods Server のポートレット権限をカスタマイズしている、移行後も同じ権限を維持する場合、SoftwareAG_directory¥profiles¥MWS_instance_name¥configuration ディレクトリに移動し、custom_wrapper.conf ファイルを開き、以下のパラメータを Java Additional Parameters セクションに追加します。

```
wrapper.java.additional.number=-DxmlImport.override.permissions=FALSE
```
2. 9.8_Software AG_directory¥MWS¥bin ディレクトリに移動し、以下のコマンドを実行して、My webMethods Server 9.8 を初期化します。

```
mws.{bat|sh} -s instance_name init
```

9.8 コンポーネントが展開され、My webMethods Server が自動的にシャットダウンします。
3. 手順 1 でパラメータを custom_wrapper.conf ファイルに追加した場合は、パラメータをファイルから削除します。
4. My webMethods Server を再起動します。

ホスト名の更新

新旧の My webMethods Server インストールが異なるマシン上にある場合は、新しいインストールのホスト名を以下の手順で検証します。

1. Administrator として My webMethods Server 9.8 にログオンし、[管理] > [My webMethods] > [クラスタ設定] > [MWS 用拡張 Web およびクラスタ設定] ページに移動します。
2. 各クラスタノードの [ホスト] フィールドおよびすべてのノードの [MWS フロントエンド URL] フィールドのホスト名が正しくない場合は、ホスト名を更新します。
3. [クラスタの状態および制御] ページに移動し、すべてのクラスタノードを再起動します。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

7 Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了

■ データを移行する前に	54
■ Integration Server 移行ユーティリティの実行	54
■ Integration Server のアップグレードの完了	59
■ ActiveTransfer のアップグレードの完了	60
■ CloudStreams のアップグレードの完了	61
■ Trading Networks のアップグレードの完了	62
■ アダプタのアップグレードの完了	62
■ eStandards モジュールのアップグレードの完了	64

データを移行する前に

1. Integration Server クラスタをアップグレードする場合、[24 ページの「古い Integration Server の準備」](#)を参照してください。
2. Deployer をホストする Integration Server をアップグレードする場合、[80 ページの「Deployer のアップグレードの完了」](#)を参照してください。
3. Integration Server がシャットダウンしていることを確認します。
4. 移行するパッケージに Wm で始まる名前を付けた場合は、9.8_Software AG_directory¥IntegrationServer¥bin¥migrate ディレクトリに移動し、packages.cnf ファイルを開いて、パッケージを識別する <value name></value> タグを追加します。ビジネスプロセスのランタイムデータを移行するときにも、Software AG Designer から名前が Wm で始まるランタイムパッケージを生成した場合は、そのパッケージを追加します。

メモ: 将来のアップグレードを簡素化するために、一般的なベストプラクティスとして、パッケージに Wm で始まる名前を付けないでください。

Integration Server 移行ユーティリティの実行

Integration Server 移行ユーティリティは、以下の項目を移行できます。

- カスタムパッケージ、ユーザ定義パッケージ、設定ファイル、カスタム jar ファイル (9.5 以降の場合) を移行します。
- 古い Integration Server が特定の製品 (たとえば、Trading Networks) をホストしており、これらの製品が Integration Server 9.8 にも存在している場合、ユーティリティはこれらの製品のデータを移行します。

9.6 または 9.7 からのアップグレード: 古い Integration Server インストールに複数のインスタンスがある場合は、移行するインスタンスごとに移行ユーティリティを 1 回ずつ実行します。インストール後に作成した 9.8 インスタンスやユーティリティが作成した新しいインスタンスに古いインスタンスを移行することができます。

移行ユーティリティの動作の概要については、[30 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。

カスタムの移行の実行

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥IntegrationServer¥bin¥migrate ディレクトリに移動します。
2. 8.2 からのアップグレード: 新旧の Integration Server インストールが異なるオペレーティングシステム上にある場合は、以下の適切なコマンドを実行します。

アップグレードする環境	実行するコマンド
Windows から UNIX/Linux へ	<code>export JAVA_TOOL_OPTIONS=-Dfile.encoding=Cp1252</code>
UNIX/Linux から Windows へ	<code>set JAVA_TOOL_OPTIONS=-Dfile.encoding=UTF-8</code>

3. コマンド `migrate. {bat|sh}` を実行します。
4. 以下のいずれかへの完全パスを尋ねられます。
 - 古い Integration Server インストール (たとえば、`C:\%old_Software AG_directory\IntegrationServer` または `/opt/old_Software AG_directory/IntegrationServer`)
 - 以前に作成した圧縮ファイル
5. 9.6 または 9.7 からのアップグレード: 古い Integration Server インストールに複数のインスタンスがある場合は、インスタンスがリストされ、どのインスタンスから移行するかを尋ねられます。
6. 移行先の 9.8 インスタンスの名前を尋ねられます。9.8 インスタンスを作成してそれに移行する場合は、9.8 インストールに存在しないインスタンス名を入力します。9.8 インストールに存在するインスタンスに移行する場合は、そのインスタンス名を入力します。

Integration Server 9.8 をインストールしたときに、Software AG Installer により、インストール時に選択したすべてのパッケージと言語パックがパッケージリポジトリにコピーされています。パッケージが古いインスタンスに存在し、同じパッケージが 9.8 パッケージリポジトリに存在する場合は、それらのパッケージは 9.8 インスタンスにインストールされます。インスタンスを作成して、言語パックがパッケージリポジトリに存在する場合は、それらの言語パックは 9.8 インスタンスにインストールされます。

メモ: 移行ユーティリティでは、デフォルトの Integration Server 9.8 インスタンスに ActiveTransfer サポートパッケージのみをインストールできます。

7. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「N」と入力します。
8. カスタムパッケージを移行するかどうかを尋ねられます。すべてのカスタムパッケージの移行を選択した場合は、以下が移行されます。
 - ユーザが作成したビジネスプロセスのランタイムパッケージ。これらのパッケージのいずれかの名前が Wm で始まる場合は、先にパッケージを `packages.cnf` ファイルに追加した場合にのみ移行されます。
 - `WmChemPayloads`、`WmPapinetPayloads`、`WmRNPIps` および `WmFINMessages` パッケージ (存在する場合)。これらの各パッケージには、eStandards モジュールの IS ドキュメントと、それらのドキュメントのスキーマが含まれます。

一部のパッケージのみを移行するように選択した場合、ユーティリティでは、上記の各パッケージがリストされ、移行するかどうかを尋ねられます。

9. ユーティリティにより、Integration Server 設定ファイルを移行するかどうかを尋ねられます。一部の設定ファイルのみを移行するように選択した場合、ユーティリティでは、各設定ファイルがリストされ、移行するかどうかを尋ねられます。約 50 個の設定ファイルが存在します。

クローン化されたデータベースで Integration Server 9.8 を使用している場合、config¥jdbc のファイルがリストされるすべてのプロンプトに対して「N」と応える必要があります。古いデータベースで Integration Server 9.8 を使用している場合、これらのプロンプトに対して「Y」と応答する必要があります。

10. 9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: カスタム jar ファイルを移行するかどうかを尋ねられます。一部のカスタム jar ファイルのみを移行するように選択した場合、ユーティリティでは、各カスタム jar ファイルがリストされ、移行するかどうかを尋ねられます。

11. 新しい 9.8 Integration Server プロパティに対して使用する動作、および 9.8 Integration Server プロパティの新しいデフォルト値を指定するように指示されます。動作を選択する場合、各プロパティがリストされ、新しい動作を使用するか既存の動作を使用するかを尋ねられます。

12. Integration Server が他の製品 (ActiveTransfer、Mediator、アダプタ、eStandards モジュールなど) をホストする場合、それらの製品のデータを移行するかどうかを尋ねられます。

メモ: Integration Server が Deployer をホストする場合、Deployer データを移行するかどうかを尋ねられます。80 ページの「Deployer のアップグレードの完了」を参照して、移行前に必要なタスクをすべて完了していない限り、データを移行しないでください。

13. Trading Networks の情報を移行するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力すると、次の内容を尋ねられます。

- a. Trading Networks 設定ファイルを移行するかどうか。「Y」を入力すると、ユーティリティにより、古い Trading Networks のインストールディレクトリの設定プロパティがコピーされ、Trading Networks 9.8 の新しい設定プロパティに追加されます。このファイルは、9.8_Software AG_directory¥IntegrationServer¥instances¥instance_name¥packages ¥WmTN¥config ディレクトリの properties.cnf ファイルを置き換えます。

メモ: Trading Networks インスタンスのクラスタがある場合、各インスタンスの設定ファイルを移行する必要があります。

- b. 8.2 からのアップグレード: Trading Networks のデータを移行するかどうか。「Y」を入力すると、ユーティリティでは次の処理が実行されます。
- 登録する IDTYPE を TradingNetworks データベースコンポーネントの IDTYPE テーブルに追加します。Trading Networks では、Trading Networks パートナの参加機能を使用してパートナーを作成するときに、登録する新しい IDTYPE を使用します。
 - 登録するシステムテンプレートデータを TradingNetworks データベースコンポーネントの TEMPLATE、TEMPLATEFIELD、TEMPLATEFIELDDEFS および TEMPLATEFIELDGROUPDEFS テーブルにインポートします。データは、Partner Onboarding 機能を使用して新しいパートナーに送信する招待に付随するデフォルトのアンケートテンプレートに表示されます。

メモ: Trading Networks インスタンスのクラスタがある場合、Trading Networks データはクラスタ内の全インスタンスによって共有されるため、1つのインスタンスのデータのみを移行します。

- c. Trading Networks のダッシュボードデータを移行するかどうか。「Y」を入力すると、ユーティリティはレコードをダッシュボードテーブルから消去し、BIZDOC テーブルのレコードをダッシュボードテーブルに設定します。ダッシュボードテーブルには、TransactionSummaryData、CustomAttributeVolumeValue、TransactionSuccessFailedData、SuccessFailedCH などがあります。
14. 設定をエクスポートするかどうかを尋ねられます。このセッションから設定をインポートすることでその他の移行を実行する場合は、「Y」を入力します。それ以外の場合は、「N」を入力します。
15. 移行を開始するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力すると、選択したデータが移行されます。移行が正常に完了すると、ユーティリティで [58 ページの「移行ユーティリティで実行されるその他のアクション」](#) のアクションも実行されます。

インポートした設定を使用した移行

インポートした設定は、以下から取得できます。

- カスタムの移行からエクスポートした設定。これらの設定は、カスタムの移行を実行した 9.8_Software AG_directory¥IntegrationServer¥bin¥migrate ディレクトリ内の migrate.dat という名前のファイルに保存されます。データの移行先にする Integration Server 9.8 インストールのホストマシンで、任意のディレクトリに migrate.dat ファイルをコピーします。
- Integration Server で提供されるデフォルトの移行の設定。古いリリースごとに、設定が 9.8_Software AG_directory¥IntegrationServer¥bin¥migrate ディレクトリ内の migraterelasesbs.dat というファイルに保存されます。この設定は、[54 ページの「Integration Server 移行ユーティリティの実行」](#) にリストされたデータを移行するように移行ユーティリティに通知します。Integration Server プロパティが新しい場合または新しいデフォルトを持つ場合、デフォルトの移行で下位互換性を維持するのに最適な動作が選択されます。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する)

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥IntegrationServer¥bin¥migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate. {bat|sh} を実行します。
2. 古い Integration Server インストールまたは以前に作成した圧縮ファイルへの完全パスを尋ねられます。
3. 9.6 または 9.7 からのアップグレード: 古い Integration Server インストールに複数のインスタンスがある場合は、インスタンスがリストされ、どのインスタンスから移行するかを尋ねられます。
4. 移行先の 9.8 インスタンスの名前を尋ねられます。9.8 インスタンスを作成してそれに移行する場合は、9.8 インストールに存在しないインスタンス名を入力します。9.8 インストールに存在するインスタンスに移行する場合は、そのインスタンス名を入力します。

Integration Server 9.8 をインストールしたときに、Software AG Installer により、インストール時に選択したすべてのパッケージと言語パックがパッケージリポジトリにコピーされています。パッ

ケースが古いインスタンスに存在し、同じパッケージが 9.8 パッケージリポジトリに存在する場合は、それらのパッケージは 9.8 インスタンスにインストールされます。インスタンスを作成して、言語パックがパッケージリポジトリに存在する場合は、それらの言語パックは 9.8 インスタンスにインストールされます。

メモ: 移行ユーティリティでは、デフォルトの Integration Server 9.8 インスタンスに ActiveTransfer サポートパッケージのみをインストールできます。

5. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「Y」と入力し、プロンプトが表示されたら、migrate.dat ファイルまたは migrate{822|901|951|960}sbs.dat ファイルへの完全パスを指定します。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない)

9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥IntegrationServer¥bin¥migrate ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。 -instanceName オプションでは、移行元の古いインスタンスと移行先の 9.8 インスタンスの両方を指定します。9.8 インスタンスが存在しない場合は、ユーティリティによって作成されます。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate.{bat|sh}
{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Integration_Server_directory|Zip_file}
-instanceName instance_name
-importFile full_path_to_{migrate.dat|migrate{822|901|951|960|970}sbs.dat}
-silent true
```

移行ユーティリティで実行されるその他のアクション

移行が正常に完了すると、移行ユーティリティで次の処理も実行されます。

- Integration Server 9.8 で使用されない古い設定ファイルを削除し、Integration Server 9.8 で使用されない古いプロパティを 9.8 設定ファイルから削除します。
- 古い Integration Server で埋め込みデータベースを使用していた場合、ユーティリティはデータベーステーブルを古い Integration Server から Integration Server 9.8 にコピーし、テーブルを新しい形式に変換します。
- 「Validate schemas using Xerces」という名前の新しいプロパティを既存の Web サービス記述子に追加し、この新しいプロパティに対して古い Integration Server における watt.server.wsdl.validateWSDLSchemaUsingXerces パラメータの値を設定します。新しいプロパティは、そのプロパティによって提供される機能を置き換えます。新しいプロパティの詳細については、『webMethods Service Development Help 9.8』を参照してください。
- 古い Integration Server が Coherence をキャッシングソフトウェアとして使用するクラスタの一部であった場合は、クラスタで Terracotta ベースのソリューションを使用するように再設定できるように、ユーティリティがクラスタリング設定を削除します。Coherence は、リリース 9.0 でサポートされなくなりました。詳細については、『webMethods Integration Server Clustering Guide 9.8』を参照してください。
- 8.2 からのアップグレード: SoftwareAG-IS-Core.xml キャッシュファイルを更新して、Integration Server 9.8 用に追加されたキャッシュを含めます。

- ビジネスルールを使用しており、ルールデータの移行を選択した場合は、ユーティリティによってビジネスルールプロジェクトがアップグレードされます。Java のバグにより、XML 解析メッセージが表示されることがありますが、それらのメッセージは無視してください。

Integration Server のアップグレードの完了

フラットファイルパッケージのプロパティファイルの移行

古い Integration Server でフラットファイルパッケージを使用していた場合は、properties.cnf ファイルを作成して、一部のフラットファイルの動作を制御していることがあります。

8.2、9.0 または 9.5 からのアップグレード: old_Software AG_directory¥IntegrationServer ¥instance_name¥packages¥WmFlatFile¥config ディレクトリに移動します。 properties.cnf ファイルが存在する場合は、そのファイルを 9.8 インストールの同じディレクトリにコピーします。

9.6 または 9.7 からのアップグレード: old_Software AG_directory¥IntegrationServer¥instances ¥instance_name¥packages¥WmFlatFile¥config ディレクトリに移動します。 properties.cnf ファイルが存在する場合は、そのファイルを 9.8 インストールの同じディレクトリにコピーします。

Integration Server 起動ファイルのカスタマイズ

Integration Server 起動スクリプトは、リリース 9.8 では変更されています。古いスクリプトをカスタマイズしていた場合は、『webMethods Integration Server Administrator's Guide』および Integration Server の README を参照し、9.8 でそれらのカスタマイズを重複させる方法を確認してください。

WSDL の更新

入力署名、出力署名、ヘッダーまたは障害メッセージで、フィールド名が xml で始まる動作があるプロバイダ Web サービスを使用する場合は、以下の手順に従います。

1. Integration Server 9.8 を起動します。
2. 9.8_Software AG_directory¥install¥logs ディレクトリで migrationLog.txt ファイルの内容を確認します。次のエラーが表示されている場合:

```
A property watt.server.xml.ncname.encode.backward.compatibility exists in
config/server.cnf with value as true. Make sure you make the required changes
as specified in the upgrade documentation. Not doing so could have adverse
effects as support for this property may be dropped in a future release.
```

WSDL を次のように更新します。

- a. Integration Server Administrator を開き、Integration Server 9.8 をポイントします。
- b. [設定] > [拡張設定] ページに移動します。拡張設定の watt.server.xml.ncname.encode.backward.compatibility があり、この設定が True になっている場合は、False に変更します。
- c. 入力署名、出力署名、ヘッダーまたは障害メッセージで、フィールド名が xml で始まる動作があるすべてのプロバイダ Web サービスに対して、クライアントを再生成します。

Integration Server 機能のデータベースコンポーネントへの接続

Integration Server とホストする製品をデータベースコンポーネントに接続します。手順については、『Installing webMethods and Intelligent Business Operations Products 9.8』を参照してください。

ホスト名の更新

新旧の Integration Server が異なるマシン上にある場合は、以下の手順に従って 9.8 のホスト名を更新します。

1. 9.8 インストールで失敗したビジネスプロセスを再サブミットする場合は、ISCoreAudit データベースコンポーネントでホスト名を更新します。
2. IS_USER_TASKS データベーステーブルの TARGET 列でホスト名を更新します。
3. 以下のデータベーステーブルの SERVERID 列を更新します。
 - IS_USER_TASKS、WMDOCUMENT、WMERROR、WMRULEDIST、WMSECURITY、WMSESSION、WMTXIN、WMTXOUT、WMTXOUTWMCONTROL
 - WMSERVICE、WMSERVICE4X、WMSERVICEACTIVITYLOG、WMSERVICEASSOC、WMSERVICECUSTOMFLDS

9.0、9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: Integration ServerNERV 設定の更新

1. 9.8_Software AG_directory¥profiles¥IS_instance_name¥configuration ¥com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリに移動して、com.softwareag.platform.eda.nerv.properties ファイルを開きます。9.8 JMS プロバイダをポイントするように、JMS プロバイダ参照を更新します。9.8 インストールをポイントするように、ファイルシステムのパスを更新します。
2. 古いインストール内の同じファイルを開きます。前述のパス値を除き、2 つのファイル内のいずれかの値が異なる場合は、古いほうの値を 9.8 の値に上書きコピーします。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「[全製品の最終的なアップグレードタスクの完了](#)」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

ActiveTransfer のアップグレードの完了

以下のすべての手順とその詳細については、『Managing File Transfers with webMethods ActiveTransfer 9.8』を参照してください。

1. 古いインストールから ActiveTransfer 9.8 インストールに、キーストアファイルと security.cnf ファイルをコピーします。キーストアファイルのパスを更新します。
2. イベントファイル操作および VFS (Virtual File System: 仮想ファイルシステム) で、ポート値、ホスト名、IP アドレスおよびローカルとリモートのファイルパスが ActiveTransfer 9.8 インストールについて適切であることを確認します。
3. 古い ActiveTransfer で一時アカウントと共有ファイルを使用していた場合は、ActiveTransfer 9.8 でも使用できるようにその情報をコピーできます。ActiveTransfer をホストする Integration Server インスタンスの `old_Software AG_directory¥IntegrationServer¥instances¥instance_name` ディレクトリに移動し、TempAccounts ディレクトリを 9.8 インストールの同じ場所にコピーします。
4. [118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」](#) の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

CloudStreams のアップグレードの完了

古い Integration Server で CloudStreams がホストされており、Integration Server の現在のバージョンで同じリリースまたは新しいリリースの CloudStreams をインストールした場合は、Integration Server 移行の一部として CloudStreams のデータおよび設定が移行されます。ただし、以下のタスクを完了する必要もあります。

1. Integration Server のプロパティ `watt.server.http.listRequestVars=asNeeded` を設定します。
2. CloudStreams アーティファクトが含まれるカスタムパッケージをバックアップします。
3. WmCloudStreams パッケージで使用できる `pub.cloudstreams.migration:migrate` パブリックサービスを実行します。このサービスは、WmCloudStreams パッケージに依存するカスタムパッケージ内の古い CloudStreams アーティファクトを移行し、CloudStreams 9.8 との互換性を持つよう更新します。アーティファクトには、SOAP や REST のコネクタサービスおよび接続が含まれます。このユーティリティは、移行の結果を Integration Server サーバログに記録します。

サービスの入力署名は次のとおりです。

パラメータ	[説明]
<code>allPackages</code>	<p>ブールストリング オプション。設定:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ WmCloudStreams に依存するすべてのカスタムパッケージから CloudStreams アーティファクトを移行する場合は <code>true</code>。 ■ パッケージパラメータに指定されたカスタムパッケージからのみ CloudStreams アーティファクトを移行する場合は <code>false</code>。これがデフォルトです。
<code>packages</code>	<p>オブジェクト 移行するカスタムパッケージの名前を含むストリング配列。少なくとも 1 つのパッケージ名を指定する必要があります。</p>

サービスの出力署名は、iData レコードの配列で構成された Result というパラメータです。この配列には、入力署名で指定された各カスタムパッケージのレコードが含まれます。各レコードのフィールドは以下のとおりです。

フィールド	[説明]
packageName	ストリング カスタムパッケージの名前。
success	ストリング 移行が成功したか (true)、失敗したか (false) を示す値。
message	ストリング パッケージ内で見つかった CloudStreams アーティファクトの数、正常に移行された CloudStreams アーティファクトの数など、移行の情報。
info	オブジェクト オプション。移行中にサービスが info メッセージを発行した場合におけるメッセージのストリング配列。
errors	オブジェクト オプション。移行中にサービスがエラーを発行した場合におけるエラーのストリング配列。

- 118 ページの「[全製品の最終的なアップグレードタスクの完了](#)」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

Trading Networks のアップグレードの完了

Integration Server 移行ユーティリティで Trading Networks 設定ファイルを移行することを選択した場合は、Software AG_directory¥IntegrationServer¥instances¥instance_name¥config¥caching ディレクトリに移動し、SoftwareAG-IS-TN.xml ファイルを削除します。

アダプタのアップグレードの完了

古い Integration Server でアダプタがホストされており、Integration Server 9.8 で同じリリースまたは新しいリリースのアダプタをインストールした場合は、Integration Server 移行の一部としてそれらのアダプタのデータが移行されます。ただし、以下のアダプタについては、指示されたタスクを完了する必要があります。次に、Integration Server を再起動し、[118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」](#)の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

webMethods Adapter for JDBC

アダプタが OCI ドライバを使用して Oracle RDBMS に接続する場合は、Integration Server 9.8 マシンで以下の環境変数を設定します。

プラットフォーム	環境変数の設定
Solaris	LD_LIBRARY_PATH=/ORACLE_HOME/lib
HP	SHLIB_PATH=/ORACLE_HOME/lib
AIX	LIBPATH=/ORACLE_HOME/lib
Linux	LD_LIBRARY_PATH=/ORACLE_HOME/lib

webMethods Package for Microsoft .NET

古いインストールで `wmSystem.exe.config` ファイルを変更した場合、新しいインストールで、同じファイルに同じ変更を加えます。このファイルは、`Software AG_directory¥IntegrationServer¥DotNetHost` ディレクトリにあります。

webMethods PeopleSoft EnterpriseOne Adapter

アダプタが Oracle RDBMS に接続する場合は、`old_Software AG_directory¥IntegrationServer ¥lib¥jars` ディレクトリに移動し、Oracle JDBC ドライバファイルを `9.8_Software AG_directory¥IntegrationServer¥lib¥jars¥custom` ディレクトリにコピーします。

webMethods SAP Adapter

1. `old_Software AG_directory¥IntegrationServer¥lib` ディレクトリに移動し、ファイル名に `*sapjco*.*` という語句が含まれているすべてのファイルを `9.8_Software AG_directory¥IntegrationServer¥lib¥jars¥custom` ディレクトリにコピーします。
2. `old_Software AG_directory¥IntegrationServer¥packages¥WmSAP¥ns¥wm¥sap¥internal¥la ¥routingListener` ディレクトリに移動して、`node.ndf` ファイルを 9.8 マシンの同じディレクトリにコピーします。
3. Integration Server 9.8 マシンで UNIX を使用している場合は、そのマシンで以下の環境変数を設定します。

プラットフォーム	環境変数の設定
Linux、Solaris	LD_LIBRARY_PATH
HP	SHLIB_PATH
AIX	LIBPATH

- Integration Server 9.8 マシンで Windows を使用している場合は、古い Integration Server マシン上の C:\%WINDOWS%\system32\drivers\etc ディレクトリに移動し、services ファイルを開き、「sapgw」という語句が含まれているすべてのエントリを 9.8 インストールの同じファイルにコピーします。たとえば、sapgw00 3300/tcp、sapgw01 3301/tcp、sapgw02 3302/tcp、sapgw03 3303/tcp、sapgw04 3304/tcp、sapgw05 3305/tcp などのエントリがあります。

eStandards モジュールのアップグレードの完了

古い Integration Server で eStandards モジュールがホストされており、Integration Server 9.8 で同じリリースまたは新しいリリースのモジュールをインストールした場合は、Integration Server 移行の一部としてそれらのモジュールのデータが移行されます。ただし、以下のモジュールについては、指示されたタスクを完了する必要があります。次に、[118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」](#)の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

webMethods FIX Module

Integration Server 9.8 に同じリリースの FIX Module をインストールした場合、old_Software AG_directory\IntegrationServer\packages に移動して、WmFIXMessages パッケージを 9.8_Software AG_directory\IntegrationServer\instances\instance_name\packages ディレクトリにコピーします。

webMethods SWIFTNet Module

モジュールを再設定します。手順については、『webMethods SWIFTNet Module Installation and User's Guide』を参照してください。

8 Software AG Designer、ビジネスプロセスのランタイムおよび Blaze のアップグレードの完了

■ Software AG Designerデータの移行	66
■ ビジネスプロセスのランタイムのアップグレードの完了	68
■ ホスト名の更新	69
■ Closed Loop Analytics の移行	69
■ 最終的なアップグレードタスクの完了	69
■ Blaze ルールのアップグレードの完了	69

Software AG Designerデータの移行

データを移行する前に

1. Software AG Designer 9.8 を開き、新しい 9.8 ワークスペースをポイントします。たとえば、デフォルトの workspace98 をそのまま使用することができます。
2. 必要に応じて、サードパーティ機能（たとえば Subversion のサポート）をインストールします。Software AG Designer 9.8 にインストールされている Eclipse のリリースは Eclipse 4.4 であるため、追加する機能が Eclipse 4.4 と互換性があることを確認します。
3. イベントをアップグレードする場合は、[ファイル] > [インポート] ウィザードに移動します。[Select] パネルで、[Run/Debug] > [Launch Configurations] を選択して、[Next] をクリックします。[From Directory] フィールドで、イベントバスコンソール設定のエクスポートでイベントバスコンソール設定をエクスポートしたディレクトリに移動し、拡張子が .launch であるすべてのファイルを選択します。[Finish] をクリックします。
4. アップグレードの前に設定をエクスポートした場合、以下の手順に従います。
 - a. [File] > [Import] ウィザードを選択します。[Select] パネルで、[General] > [Preferences] を選択して、[Next] をクリックします。[From preference file] フィールドに、設定をエクスポートした .epf ファイルを指定します。[Finish] をクリックします。
 - b. [Window] > [Preferences] を選択します。設定ウィンドウで [Java] > [Installed JREs] > [Execution Environments] ページに移動します。複数の JRE がリストされている場合は、JRE 1.8 がデフォルトとして選択されていることを確認するか、またはリストから古い JRE を削除します。古い製品インストールをポイントしている設定を更新して、9.8 製品インストールをポイントするように設定します。たとえば My webMethods Server の場合、[Server] > [Runtime Environments] 設定を更新します。

ビジネスプロセスとビジネスルールプロジェクトの移行

1. Software AG Designer 9.8 を起動します。
2. プロジェクトがソースコントロールシステムに保存されている場合は、そのシステム用のインポートウィザードを使用します（たとえば [Import SVN] > [Project from SVN]）。プロジェクトが Software AG Designer ワークスペースに保存されている場合は、以下の手順に従います。
 - a. [File] > [Import] ウィザードを選択します。
 - b. [Select] パネルで、[General] > [Existing Projects into Workspace] を選択して [Next] をクリックします。
 - c. [Import Projects] パネルで、以下の手順に従います。
 - a. [Select Root Directory] をクリックして、インポートする種類のプロジェクトがあるワークスペースに移動します。または、[Select Archive File] をクリックして、インポートする種類のプロジェクトがあるディレクトリに移動します。

- b. **[Projects]** ボックスで、インポートするプロジェクトを選択します。 **[Copy projects into workspace]** を選択します。 **[Finish]** をクリックします。
3. 以下の点を確認します。
 - インポートしたすべてのビジネスプロセスプロジェクトが **[ソリューション]** タブの **[プロセス]** ノードの下に表示されている。
 - インポートしたすべてのビジネスルールプロジェクトが **[ソリューション]** タブの **[ルール]** ノードの下に表示されている。
4. ビジネスルールプロジェクトをインポートした場合は、**[ルールエクスプローラ]** で各プロジェクトを右クリックし、**[プロジェクトのアップグレード]** をクリックします。

タスクアプリケーションプロジェクトの移行

1. Software AG Designer 9.8 で、**[ウインドウ]** > **[設定]** > **[サーバ]** > **[Runtime Environments]** を選択します。インストールされているサーバランタイムのリストに My webMethods Server 9.8 が含まれていない場合は、このランタイムを追加します。
2. **[Software AG]** > **[タスク開発]** に移動します。設定ウィンドウで、その他のタスク関連の Software AG Designer 設定がすべて正しいことを確認し、**[OK]** をクリックします。
3. **[File]** > **[Import]** ウィザードを選択します。
 - a. **[Select]** パネルで、**[Software AG]** > **[既存の CAF プロジェクトをワークスペースへ]** に移動して **[Next]** をクリックします。
 - b. **[Import Projects]** パネルで、**[Select Root Directory]** をクリックして、タスクアプリケーションプロジェクトがあるワークスペースまたはソースコントロールシステムに移動します。または、**[Select Archive File]** をクリックして、タスクアプリケーションプロジェクトがあるディレクトリに移動します。 **[Projects]** ボックスで、インポートするプロジェクトを選択します。
 - c. **[Copy projects into workspace]** を選択し、**[Finish]** をクリックします。
4. インポートしたすべてのタスクのアプリケーションプロジェクトが **[ソリューション]** タブの **[タスク]** ノードの下に表示されていることを確認してください。
5. エラーが **[Problems]** タブに表示される場合、**[Navigator]** タブをクリックします。各タスクアプリケーションプロジェクトを右クリックして、**[CAF ツール]** > **[CAF プロジェクトの修復]** をクリックします。エラーが消えない場合は、Software AG Designer を再起動してください。
6. 移行したタスクアプリケーションプロジェクトを My webMethods Server 9.8 にパブリッシュします。手順については、『webMethods BPM Task Development Help 9.8』を参照してください。

CloudStreams のサーバ定義とプロジェクトの移行

1. Software AG Designer 9.8 を起動します。
2. CloudStreams サーバ定義を以下の手順に従ってインポートします。

- a. [CloudStreams開発] パースペクティブに移動して、[ウィンドウ] > [設定] に移動します。 [設定] ダイアログボックスにある左側のナビゲーションバーで、[Software AG] > [CloudStreamsServers] を選択します。
 - b. [インポート] をクリックして、エクスポートした .properties ファイルを選択し、[開く] をクリックします。 既存のサーバを上書きするかどうかを尋ねられます。 [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックして [Preferences] ダイアログボックスを閉じます。
3. CloudStreams Governance プロジェクトを以下の手順に従ってインポートします。
- a. [File] > [Import] ウィザードを選択します。 [選択] パネルで、[Software AG] > [CloudStreamsGovernance プロジェクト] に移動して [次へ] をクリックします。
 - b. [CloudStreams Governance プロジェクトのインポート] パネルで、エクスポートしたプロジェクトを含むディレクトリを、[ルートディレクトリの選択] フィールドに指定します。 [Projects] ボックスで、インポートするプロジェクトを選択します。
 - c. [Copy projects into workspace] を選択し、[Finish] をクリックします。
 - d. [CloudStreams開発] パースペクティブで、インポートしたすべての Governance プロジェクトが [CloudStreamsGovernance] タブに表示されていることを確認します。
4. 前の手順を繰り返して CloudStreams Provider プロジェクトをインポートします。

Integration Server 定義の移行

1. Software AG Designer 9.8 で、[ウィンドウ] > [設定] を選択します。 [Preferences] ダイアログボックスにある左側のナビゲーションバーで、[Software AG] > [Integration Server] を選択します。
2. [インポート] をクリックして、エクスポートした .properties ファイルを選択し、[開く] をクリックします。 既存のサーバを上書きするかどうかを尋ねられます。 [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックして [Preferences] ダイアログボックスを閉じます。

ビジネスプロセスのランタイムのアップグレードの完了

メモ: 9.8 にアップグレードする前に作成したプロセスモデルに基づくプロセスインスタンスが稼働中で、Software AG Designer 9.8 でそのプロセスモデルを再生成する場合は、再生成する前にプロセスモデルのバージョン番号を次のシーケンス番号に変更します。 そうしないと、プロセスインスタンスが想定通りに動作しません。 My webMethods Server で実行するためにプロセスモデルの新しいバージョンを有効にすると、稼働中のプロセスをアップグレードするかどうかの確認を求められますが、[いいえ] と答えます。

1. webMethods Broker をアップグレードした場合、9.6 でも Process Engine で使用される新しい Broker に古いリリースのときと同じ名前が設定されていることを確認します。 それには、Integration Server Administrator を開き、Integration Server 9.8 をポイントします。 [設定] > [メッセージング] > [webMethods メッセージングの設定] ページに移動し、Broker 名を確認します。
2. 54 ページの「Integration Server 移行ユーティリティの実行」の手順に従ってプロセスランタイムパッケージを移行した場合、パッケージが 9.8_Software AG_directory¥IntegrationServer

¥instances¥instance_name¥packages ディレクトリに存在していることを確認します。パッケージ名は、プロジェクト名または Software AG Designer で指定したカスタムの名前です。

3. Integration Server Administrator を開き、Integration Server 9.8 をポイントします。[設定] > [JDBC プール] ページに移動します。ProcessEngine および ProcessAudit 機能をデータベースコンポーネントに接続します。手順については、『Installing webMethods and Intelligent Business Operations Products 9.8』を参照してください。
4. Integration Server 9.8 上のすべての webMethods メッセージングトリガーのドキュメント抽出が有効であることを確認します。手順については、『webMethods Integration Server Administrator's Guide 9.8』を参照してください。

ホスト名の更新

新旧のビジネスプロセス製品のインストールが異なるマシン上にある場合は、以下のデータベーステーブルの SERVERID 列のホスト名を更新します。

- PRTINSTANCEITER、PRTPROCESS、PRTPROCLOCK、PRTQUEUE、PRTSTEPLOCK、PRTSTEPSTATE、PRTSTEPSUSPENSION
- PRA_ERROR
- PRA_PROCESS、PRA_PROCESS_AT_REST、PRA_PROCESS_CUSTOM、PRA_PROCESS_STEP、PRA_PROCESS_STEP_LOOP
- PRA_STEP_LOGGED_FIELD、PRA_STEP_LOOP_LOGGED_FIELD、PRA_STEP_MESSAGE、PRA_STEP_TRANSITION
- WMSTG_PROCESS_CONTROL、WMSTG_PROCESS_STEP、WMRULEDIST

Closed Loop Analytics の移行

この章の説明に従って、ビジネスプロセス、ビジネスルールおよびタスクアプリケーションプロジェクトを移行して、Closed Loop Analytics に関連するすべてのアセットを移行します。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

Blaze ルールのアップグレードの完了

『Using Blaze Rules with BPM and CAF 9.8』の手順を使用して、Blaze ルールを移行します。

9 Optimize のアップグレードの完了

■ Terracotta Server Array の設定と起動	72
■ 他の製品への接続の更新	72
■ Infrastructure Data Collector のアップグレードの完了	73
■ Optimize 環境の展開	75
■ webMethods Broker から Universal Messaging への切り替え	77
■ 最終的なアップグレードタスクの完了	78


Terracotta Server Array の設定と起動

リリース 9.8 で Analytic Engine をクラスタ化している場合は、Terracotta Server Array を設定して起動する必要があります。手順については、『Getting Started with the webMethods Product Suite and Terracotta 9.8』、『Configuring BAM 9.8』および Terracotta BigMemory Max 4.1 以降のマニュアルを参照してください。

他の製品への接続の更新

Process Engine への接続の更新

Optimize for Process を使用している場合は、以下の手順に従います。


1. Integration Server Administrator を開き、Process Engine をホストする Integration Server 9.8 をポイントします。
2. [パッケージ] > [管理] ページに移動して、WmPRT パッケージの  アイコンをクリックします。
3. 左側のナビゲーションバーで [設定] をクリックして、[Process Engine 設定の編集] をクリックします。
4. [JMS Server の URL] フィールドで、JMS プロバイダのホスト名とポートを次のように指定します。

JMS プロバイダ	URL の形式
webMethods Broker	broker://host:port/Broker_name。 デフォルトポートは 6849 です。
Universal Messaging	nsp://host:port。 デフォルトポートは 9000 です。

5. [サブミット] をクリックして、WmPRT パッケージを再ロードします。
6. Integration Server をホスティングするすべての Process Engine について、上記の手順を繰り返します。

Optimize Support パッケージへの接続の更新

Optimize 組み込みサービスを使用している場合は、以下の手順に従います。

1. Integration Server Administrator を開き、Optimize Support パッケージをホストする Integration Server 9.8 をポイントします。
2. [パッケージ] > [管理] ページに移動して、WmOptimize パッケージの  アイコンをクリックします。

3. Analytic Engine のホストマシンとポートを指定します。デフォルトポートは 12503 です。
4. [JMS Server の URL] フィールドで、JMS プロバイダのホスト名とポートを次のように指定します。

JMS プロバイダ	URL の形式
webMethods Broker	broker://host:port/Broker_name。デフォルトポートは 6849 です。
Universal Messaging	nsp://host:port。デフォルトポートは 9000 です。

5. [サブミット] をクリックして、WmOptimize パッケージを再ロードします。
6. Optimize Support パッケージをホスティングするすべての Integration Server について、上記の手順を繰り返します。

Infrastructure Data Collector のアップグレードの完了

8.2 からのアップグレード: クラスタ化されている Integration Server の監視の再開

Oracle Coherence を使用してクラスタ化された Integration Server は、これまで、Terracotta ベースのクラスタリングソリューションを代わりに使用するよう再設定されていました。現在では、クラスタ化された監視対象の Integration Server を再検出し、26 ページの「古い Optimize の準備」でメモに書きとめた KPI を再選択して、監視を再開することができます。手順については、『Administering webMethods Optimize 9.8』を参照してください。

9.7 からのアップグレード: 4.1 以降の Terracotta Server Array の監視の開始

各手順については、『Administering webMethods Optimize 9.8』を参照してください。

1. [アプリケーション] > [管理] > [インフラストラクチャコンポーネント] > [検出] に移動します。
2. すべての Terracotta (アセット) エントリを削除します。
3. 監視する 4.1 以降の Terracotta Server Array を再検出します。
4. [アプリケーション] > [管理] > [インフラストラクチャコンポーネント] > [監視中のコンポーネント] に移動します。Terracotta Server Array モニタ、コンポーネントおよび KPI を選択します。

Java サービスラッパーへのカスタマイズの移行

古い Infrastructure Data Collector Java サービスラッパーをカスタマイズしている場合は、古い `wrapper_conf` または `custom_wrapper.conf` ファイルから 9.8 の `custom_wrapper.conf` ファイルにカスタマイズをコピーします。これらのファイルは `Software AG_directory¥profiles¥InfraDC¥configuration` ディレクトリにあります。

Infrastructure Data Collector 移行ユーティリティの実行

Infrastructure Data Collector ユーティリティは、Infrastructure Data Collector のアセット設定ファイルと JAAS 設定を移行します。

移行ユーティリティの動作の概要については、[30 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。

データを移行する前に

1. 古い Infrastructure Data Collector をシャットダウンしていることを確認します。
2. `9.8_Software_AG_directoryinfrastructuredc¥bin¥migrate¥release` ディレクトリに移動し、`migrateConfigFile.properties` ファイルを開きます。各アセット設定ファイルまたはアセット設定ファイルが含まれるディレクトリを指定し、`migrateConfigFile.properties` ファイルに表示されている形式を使用して移行します。

カスタムの移行の実行

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、`9.8_Software AG_directory¥infrastructuredc¥bin¥migrate` ディレクトリに移動し、コマンド `migrate. {bat|sh}` を実行します。
2. 以下のいずれかへの完全パスを尋ねられます。
 - 古い Infrastructure Data Collector インストール (たとえば、`C:¥old_Software AG_directory¥infrastructuredc` または `/opt/old_Software AG_directory/infrastructuredc`)
 - 以前に作成した圧縮ファイル
3. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「N」と入力します。
4. SNMP アセット設定ファイルを移行するかどうかを尋ねられます。[74 ページの「データを移行する前に」](#)の `migrateConfigFile.properties` ファイルで指定した古いファイルが移行されます。
5. Infrastructure Data Collector の JAAS 設定を移行するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力すると、JAAS 設定ファイル内の古いディレクトリへの参照を、9.8 ディレクトリへの参照に置き換えるかどうかを尋ねられます。
6. 設定をエクスポートするかどうかを尋ねられます。このセッションから設定をインポートすることでその他の移行を実行する場合は、「Y」を入力します。それ以外の場合は、「N」を入力します。
7. 移行を開始するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力すると、選択したデータが移行されます。

アセット設定ファイルと、Infrastructure Data Collector 9.8 インストール内に既に存在する古いファイルと同じ名前を持つファイルの移行を選択すると、古いファイルが移行される前に、`9.8_Software AG_directory¥infrastructuredc¥migrationbackup` ディレクトリに 9.8 ファイルがバックアップされます。これは、JAAS 設定ファイルについても同様です。

インポートした設定を使用した移行

インポートした設定は、以下から取得できます。

- カスタムの移行からエクスポートした設定。これらの設定は、カスタムの移行を実行した 9.8_Software AG_directory¥infrastructuredc¥bin¥migrate ディレクトリ内の migrate.dat という名前のファイルに保存されます。データの移行先にする Infrastructure Data Collector 9.8 インストールのホストマシンで、任意のディレクトリに migrate.dat ファイルをコピーします。
- Infrastructure Data Collector で提供されるデフォルトの移行の設定。古いリリースごとに、設定が 9.8_Software AG_directory¥infrastructuredc¥bin¥migrate ディレクトリ内の migraterelasesbs.dat というファイルに保存されます。この設定は、[73 ページの「Infrastructure Data Collector のアップグレードの完了」](#) にリストされたデータを移行するように移行ユーティリティに通知します。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する)

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥infrastructuredc¥bin¥migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate. {bat|sh} を実行します。
2. 古い Infrastructure Data Collector インストールまたは以前に作成した圧縮ファイルへの完全パスを尋ねられます。
3. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「Y」と入力し、プロンプトが表示されたら、migrate.dat ファイルまたは migrate{822|901|951|960|970}sbs.dat ファイルへの完全パスを指定します。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない)

9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥infrastructuredc ¥bin¥migrate ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate.{bat|sh}
{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Infrastructure Data
Collector_directory|Zip_file}
-importFile full_path_to_{migrate.dat|{821|901|951|960|970}sbs.dat}
-silent true
```

Optimize 環境の展開

特に記述がない限り、これ以降の節で説明する Optimize の手順の詳細については、『Configuring BAM 9.8』を参照してください。

古い Optimize CCS 環境定義を再利用しない場合

古い CCS (Central Configuration System) 環境定義を再利用しない場合は、My webMethods Server 9.8 を起動して My webMethods を開き、Optimize 9.8 環境を設定します。

Infrastructure Data Collector のホストを定義する場合、[ホストの追加/編集] ダイアログボックスの [ホスト名または IP アドレス] フィールドに、古いリリースと同じ値を入力します。



メモ: 9.8 の値が古い値と一致しない場合、アップグレードの完了後に、既存のアセットの監視を停止してこれらを再検出し、監視対象として選択する必要があります。

Optimize 9.8 環境を展開する以下の手順に進みます。

古い Optimize CCS 環境定義を再利用する場合

Optimize 9.8 をインストールする前にファイルにエクスポートした古い CCS 環境定義を再利用する場合は、以下の手順に従います。

1. My webMethods Server 9.8 を起動して My webMethods を開きます。
2. 以下の手順に従って、古い CCS 環境をインポートします。
 - a. [アプリケーション] > [管理] > [システム全体] > [環境] > [環境の定義] ページに移動します。
 - b. [環境のインポート] をクリックします。[環境のインポート] ダイアログボックスで [参照] をクリックし、古い CCS 環境をエクスポートしたファイルを選択して [OK] をクリックします。プロンプトが表示されたら、移行を確認します。
 - c. 「環境を最新バージョンに移行しますか?」と尋ねられたら、[はい] をクリックします。CCS は古い環境をインポートして、そのデータを 9.8 Optimize 論理サーバに移行します。
3. インポートした環境に関連付けられたデータベースプール定義に対応するように、以下の手順に従って、データベースプール接続設定を更新します。
 - a. [アプリケーション] > [管理] > [システム全体] > [環境] > [データベースプール設定] ページに移動します。
 - b. [プール] 列で、インポートしたデータベースプールをクリックします。
 - c. [プールの設定] 領域で、[接続数の最小値] フィールドに 8 を指定し、[接続数の最大値] フィールドに 60 を指定します。
 - d. データベース接続情報が正しいことを確認します。[データベース接続] 領域で [テスト] をクリックし、ページの下部にメッセージ [テストに合格しました。] が表示されることを確認します。
 - e. [Save] をクリックします。
4. [アプリケーション] > [管理] > [システム全体] > [環境] > [環境の定義] ページに移動します。[環境名] の下で、インポートした環境をクリックします。
5. 9.8 リリースで、古いリリースで使用していたものとは異なる JMS プロバイダを使用している場合は、以下の手順に従います。
 - a. [サーバの設定] タブをクリックします。[設定] で、[デフォルトの設定] ツリーを開いて [JNDI Configuration] をクリックします。
 - b. [Naming Factory Type] リストで、9.8 リリースで使用している JMS プロバイダをクリックします。webMethods Broker を使用している場合は、[Broker Name] フィールドに入力します。Universal Messaging を使用している場合は、フィールドをクリアします。

- c. [エンドポイントのマップ] タブをクリックします。JMS プロバイダの最初の [受信接続] フィールドで、webMethods Broker を使用している場合は「broker」、Universal Messaging を使用している場合は「nsp」と入力します。2 番目のフィールドに、ポート番号を入力します。
 - d. [Save] をクリックします。
6. 環境の妥当性を検査するには、以下の手順に従います。
- a.  アイコンを表示している各タブをクリックします ([検査] タブを除く)。タブの設定を変更し、このタブに [保存] ボタンがある場合は、[保存] をクリックします。
 - b. [検査] タブを除くすべてのタブに  が表示されたら、[検査] タブをクリックします。
7. [Finish] をクリックします。

Optimize 9.8 環境の展開

1. インストールした Optimize 9.8 コンポーネントを起動します。これらのコンポーネントには、Analytic Engine、Infrastructure Data Collector および Web Services Data Collector があります。
 2. 9.8 リリースで使用している JMS プロバイダを起動します。
 3. Optimize 9.8 環境を展開します。手順については、『Configuring BAM 9.8』を参照してください。
 4. My webMethods で、[My webMethods] > [システム設定] > [サーバ] ページに移動します。
 - BPMS がインストールされている場合は、[BPM および BAM] オプションを選択し、アップグレードされた Analytic Engine、および Monitor をホストする Integration Server を指定します。DNS 名または IP アドレスを使用してホストを指定できます。
 - BPMS がインストールされていても BPM を使用していない場合 (つまり Optimize のみを使用している場合)、[BAM のみ] オプションを選択し、アップグレードされた Analytic Engine を指定します。DNS 名または IP アドレスを使用してホストを指定できます。
- [サーバ状態の確認] をクリックして、サーバが使用可能であることを確認します (使用可能である場合は、緑色のアイコンが表示されます)。サーバが使用可能になるまでに時間がかかることがあります (15 分程度)。次に [保存] をクリックします。

webMethods Broker から Universal Messaging への切り替え

古いリリースでは JMS プロバイダとして webMethods Broker を使用していて、9.8 では Universal Messaging を使用している場合、以下の手順に従います。

1. Universal Messaging を起動して、Universal Messaging Enterprise Manager を開きます。
2. サーバインスタンスに接続して、これをクリックします。
3. [設定] タブをクリックします。[グローバル値] を展開して、AllowRealmAdminFullAccess を「true」に設定します。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

10 Asset Build Environment および Deployer のアップグレードの完了

■ Asset Build Environment のアップグレードの完了	80
■ Deployer のアップグレードの完了	80

Asset Build Environment のアップグレードの完了

old_Software AG_directory¥common¥AssetBuildEnvironment¥master_build ディレクトリに移動して、build.properties ファイルを開きます。プロパティの値を 9.8 インストールの同じファイルにコピーします。

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

Deployer のアップグレードの完了

Deployer データの移行には、次の 2 つのオプションがあります。

- Integration Server 移行ユーティリティを使用して、すべての Deployer グローバル (デフォルト) 設定、サーバエイリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトを移行できます。
- グローバル (デフォルト) 設定を移行するかどうかを選択できます。また、Deployer 移行機能を使用して移行するサーバエイリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトを選択できます。

オプションごとの手順については、以下を参照してください。

Deployer で実行する必要があるタスクの手順については、『webMethods Deployer User's Guide』を参照してください。

重要: Deployer プロジェクトを移行しても、それらのプロジェクトのアセットは古いリリースから 9.8 に変換されません。Deployer 設定、サーバエイリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトを移行する前に、このマニュアルで前述した手順に従って、すべての製品アセットを移行する必要があります。

Deployer 設定、サーバエイリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトを移行する前に

1. このマニュアルの手順に従って、古い Deployer で定義されたソース/ターゲットの全製品サーバを 9.8 リリースにアップグレードして、すべての製品データとアセットを 9.8 リリースに移行したことを確認します。
2. このマニュアルの手順に従って、Deployer 9.8 をホストする Integration Server 9.8 をアップグレードして、データを移行したことを確認します。
3. 古い Deployer をホストしている Integration Server および Deployer 9.8 をホストしている Integration Server の両方に対して、自分自身が Administrators ACL、または Internal、Developer ACL、Deployer Admin ACL などのメンバーになっていることを確認します。手順については、『webMethods Integration Server Administrator's Guide 9.8』を参照してください。
4. 古い Deployer で、新しい 9.8 のソース/ターゲット製品サーバをポイントするように、古いソース/ターゲット製品サーバへの接続をすべて編集します。ユーザ名とパスワードが不明な場合、これらを入力する必要はありません。

5. 古い Deployer と同じマシンに Deployer 9.8 をインストールした場合、古い Deployer で使用していたポートを Deployer 9.8 でも使用する必要がある場合があります。同じポートを使用する場合は、以下の手順に従います。
 - a. Integration Server Administrator で古い Deployer をホストする Integration Server をポイントして、[セキュリティ] > [ポート] ページに移動します。
 - b. [ポートの追加] > [webMethods/HTTP] > [サブミット] をクリックします。ポートの詳細を入力し、[有効] で [はい] をクリックし、パッケージ名の下にある [WmRoot] をクリックし、[変更内容の保存] をクリックします。
 - c. [プライマリポートの変更] をクリックし、新しいポートをクリックして、[更新] をクリックします。
 - d. 新しいポートの [アクセスモード] 列で、[編集] をクリックします。ポートの [アクセスモードの編集] ページで、[アクセスモードのデフォルトを許可に設定] をクリックします。警告のポップアップで [OK] をクリックします。メッセージ [ポートサービスアクセス設定のアクセスモードを正常に変更しました] が表示されます。
 - e. 古いポートの [有効] 列の [はい] をクリックして、ポートを無効にします。

Integration Server 移行ユーティリティを使用したすべての Deployer 設定、サーバエイリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトの移行

前の節で、Deployer 9.8 をホストする Integration Server をアップグレードして、そのデータを移行しました。Deployer 設定、サーバエイリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトを移行する前に、ホスト Integration Server を起動しないでください。起動すると、MIGRATION_DONE というファイルが WmDeployer パッケージ内に作成され、Deployer 設定、サーバエイリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトを移行できなくなります。ホスト Integration Server を起動した場合は、このファイルを削除します。

53 ページの「Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了」の手順を使用して、Deployer 設定、サーバエイリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトを移行します。

Deployer 移行機能を使用した Deployer 設定、サーバエイリアス、ターゲットグループおよびプロジェクトの移行

古い Deployer と Deployer 9.8 を起動してグローバル (デフォルト) 設定を移行する

1. 古い Deployer と Deployer 9.8 を起動します。
2. Deployer 9.8 で、[ツール] > [データの移行] ページに移動します。[Host] および [Port] フィールドに、移行元の古い Deployer を指定します。[User] および [Password] フィールドに、古い Deployer へのログオンに使用するユーザ名とパスワードを指定します。

3. Deployer 9.8 では、移行するサーバエイリアス、ターゲットグループまたはプロジェクトが右側のペインにリストされます。[**Page Size**] リストで、一度にリストするサーバエイリアスまたはプロジェクトの数をクリックします。
4. Deployer で、すべてのプロジェクトのデフォルト (依存性検査、プロジェクトのロック、展開の全般設定などのデフォルト) を設定します。また、Integration Server および Trading Networks プロジェクトのデフォルト (展開時のアセットの一時停止、既存アセットの上書き、展開後のアセットの有効化などのデフォルト) も設定します。これらのデフォルト設定を移行する場合、Deployer 9.8 で [**デフォルト設定の移行**] をクリックします。

サーバエイリアスの移行 (接続情報)


移行するサーバエイリアスを選択できます。ただし、ターゲットグループを移行する場合、ターゲットグループ内のサーバエイリアスをすべて移行するか、ターゲットグループから移行しないサーバエイリアスを削除する必要があります。

1. Deployer 9.8 で、[**サーバエイリアスの移行**] をクリックします。[**Select Server**] リストで、エイリアスを移行するサーバのタイプをクリックします。
2. [**選択**] 列で、移行するサーバエイリアスの横にあるチェックボックスをオンにします。[**選択したエイリアスをサーバにポイントする**] リストで、[**9.8**] をクリックします。
3. [**Migrate Server Aliases**] をクリックします。Deployer によって、選択したサーバエイリアスが移行されると、これらの行は無効になり、サーバエイリアスの [**Migrate**] 列には [**Yes**] が表示されます。
4. エイリアスを移行するサーバのタイプごとに、上記の手順を繰り返します。
5. Deployer から Integration Server HTTPS サーバエイリアスを移行することはできません。ホスト Integration Server でこれらのサーバエイリアスを手動で再作成します。

ターゲットグループの移行

1. 移行するターゲットグループで一部のサーバエイリアスを移行しなかった場合、古い Deployer でこれらのサーバエイリアスをターゲットグループから削除します。


重要: ターゲットグループに無効なサーバエイリアスが含まれている場合、これらのターゲットグループを使用するプロジェクトの展開は失敗します。

2. Deployer 9.8 で、[**ターゲットグループの移行**] をクリックします。[**Select Server**] リストで、移行するターゲットグループを持つサーバのタイプをクリックします。
3. [**Simulate Migration**] 列で、移行するターゲットグループの各行の  をクリックします。
Deployer には、ターゲットグループが参照するサーバエイリアスが移行されたかどうかを示すメッセージが表示されます。一部のサーバエイリアスを移行しなかった場合、これらを移行するか、指定されたターゲットグループからこれらを削除します。
4. [**Select**] 列で、移行するターゲットグループの横にあるチェックボックスをオンにします。[**選択したエイリアスをグループにポイントする**] リストで、[**9.8**] をクリックします。
5. [**Migrate Target Groups**] をクリックします。Deployer によって、選択したターゲットグループが移行されると、これらの行は無効になり、グループの [**Migrate**] 列には [**Yes**] が表示されます。

展開プロジェクトの移行

1. Deployer プロジェクトで参照されるすべての 9.8 ソース製品サーバを起動します。

メモ: Deployer プロジェクトで参照されるサーバを実行していない場合、またはプロジェクトで参照されるサーバの接続設定が正しくない場合、プロジェクトを後で再構築する必要があります。Deployer にはこの結果に関するメッセージが表示されます。

2. Deployer 9.8 で、[プロジェクトの移行] をクリックします。
3. 右側のペインにある [Simulate Migration] 列で、移行する各プロジェクトの  行をクリックします。Deployer には、プロジェクトが参照するソースサーバが実行中であるかどうかを示すメッセージが表示されます。参照されるソースサーバを実行していないとメッセージで通知された場合、これらのサーバを起動します。
4. [Select] 列で、移行するプロジェクトの横にあるチェックボックスをオンにし、[Migrate Projects] をクリックします。Deployer の新しいウィンドウが開かれ、移行の状況が動的に通知されます。元のウィンドウの [Report] 列では、プロジェクトごとに移行レポートを表示できます。最新の移行状態は、[View Latest Migration Report] をクリックして表示できます。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

11 Command Central のアップグレードの完了

■ データを移行する前に	86
■ Command Central インフラストラクチャの移行	86
■ Command Central 移行ユーティリティの実行	87
■ Command Central のアップグレードの完了	89

データを移行する前に

古い Command Central をシャットダウンしていることを確認します。

Command Central インフラストラクチャの移行

1. Command Central Java サービスラッパーをカスタマイズしている場合は、古い wrapper_conf または custom_wrapper.conf ファイルから 9.8 の custom_wrapper.conf ファイルにカスタマイズをコピーします。ファイルは Software AG_directory¥profiles¥CCE¥configuration ディレクトリにあります。
2. 以下の各ケースで、古いインストールと 9.8 インストール内の指示されたディレクトリ内のファイルを開きます。古いファイル内の値が 9.8 ファイル内の対応する値と異なる場合は、古いほうの値を 9.8 の値に上書きコピーします。さらに、9.8 ファイル内のファイルシステムのパスを更新して、9.8 インストールをポイントするように設定します。

設定	古い Software AG ディレクトリと 9.8 Software AG ディレクトリ内のファイル名
Debug	¥profiles¥CCE¥configuration ¥com.softwareag.platform.config.propsloader ¥com.softwareag.platform.debug.properties
JMX ポート	¥com.softwareag.jmx.connector.pid-port.properties
セキュリティ認証	¥com.softwareag.security.authz.pid.properties
セキュリティ LDAP	¥com.softwareag.security.ldap.pid.properties
シングルサインオンサービス	¥com.softwareag.sso.pid.properties
SSH	¥com.softwareag.sshd.pid.properties
ウォッチドッグ	¥com.softwareag.config.watchdog.pid.properties
ジャーナルロガー	¥profiles¥CCE¥configuration¥logging¥log_config_.xml
9.0 または 9.5 からのアップグ	¥profiles¥CCE¥configuration¥security¥passman¥scPassMan.config.xml

設定	古い Software AG ディレクトリと 9.8 Software AG ディレクトリ内のファイル名
レード: パスワードマネージャ	

3. 9.0 または 9.5 からのアップグレード: 以下の各設定タイプで、古いインストールの指示されたディレクトリから、9.8 インストールの同じディレクトリにファイルをコピーします。

設定	古い Software AG ディレクトリと 9.8 Software AG ディレクトリ内のファイル名
JAAS	¥profiles¥CCE¥configuration¥jaas.config file
パスワードマネージャ	¥profiles¥CCE¥configuration¥security¥passman¥ defaultPassStore.dat and mpw.dat

4. 以下の各ケースで、指示されたディレクトリのファイルを開き、9.8 インストールをポイントするようにファイルシステムのパスを更新します。

設定	9.8 Software AG ディレクトリ内のファイル名
JAAS	¥profiles¥CCE¥configuration¥jaas.config
パスワードマネージャ	¥profiles¥CCE¥configuration¥security¥passman¥ defaultPassStore.dat and mpw.dat

Command Central 移行ユーティリティの実行

Command Central 移行ユーティリティは、以下の項目を移行できます。

- Command Central が管理している環境、ノード (インストール)、および製品に関するメタデータを含む環境設定
- ユーザ、役割、およびグループ
- ポート設定
- 9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: ライセンスツールとテンプレート
- 9.6 または 9.7 からのアップグレード: JAAS 設定とパスワードマネージャのデータ
- 9.7 からのアップグレード: ehCache ディスクストア

移行ユーティリティの動作の概要については、[30 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。

カスタムの移行の実行

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥CommandCentral¥migrate¥bin ディレクトリに移動し、コマンド migrate. {bat|} を実行します。
2. 以下のいずれかへの完全パスを尋ねられます。
 - 古い Command Central インストールを含む Software AG ディレクトリ (たとえば、C: ¥old_Software AG_directory または /opt/old_Software AG_directory)
 - 以前に作成した圧縮ファイル
3. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「N」と入力します。
4. 環境設定データ、ユーザ、役割、グループを移行するかどうかを尋ねられます。
5. 9.5、9.6 または 9.7 からのアップグレード: ライセンスツールとテンプレートを移行するかどうかを尋ねられます。
6. 9.6 または 9.7 からのアップグレード: JAAS 設定とパスワードマネージャのデータを移行するかどうかを尋ねられます。
7. 9.7 からのアップグレード: ehCache ディスクストアデータを移行するかどうかを尋ねられます。
8. HTTP および HTTPS ポート設定を移行するかどうかを尋ねられます。
9. 設定をエクスポートするかどうかを尋ねられます。このセッションから設定をインポートすることでその他の移行を実行する場合は、「Y」を入力します。それ以外の場合は、「N」を入力します。
10. 移行を開始するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力すると、選択したデータが移行されます。

インポートした設定を使用した移行

インポートした設定は、以下から取得できます。

- カスタムの移行からエクスポートした設定。これらの設定は、migrate.dat というファイルに保存されます。このファイルは、カスタムの移行を実行した 9.8_Software AG_directory¥CCE¥migrate ¥bin ディレクトリに保存されます。データの移行先にする Command Central 9.8 インストールのホストマシンで、任意のディレクトリに migrate.dat ファイルをコピーします。
- Command Central で提供されるデフォルトの移行の設定。古いリリースごとに、設定が 9.8_Software AG_directory¥CCE¥migrate¥bin ディレクトリ内の migraterelasesbs.dat というファイルに保存されます。この設定は、[87 ページの「Command Central 移行ユーティリティの実行」](#) にリストされたデータを移行するように移行ユーティリティに通知します。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する)

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥CCE ¥migrate¥bin ディレクトリに移動し、コマンド migrate. {bat|} を実行します。
2. 古い Command Central インストールを含む Software AG ディレクトリまたは以前に作成した圧縮ファイルへの完全パスを尋ねられます。

3. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「Y」と入力し、プロンプトが表示されたら、migrate.dat ファイルまたは migrate{901|951|960}sbs.dat ファイルへの完全パスを指定します。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない)

9.8 マシンで、コマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥CCE¥migrate ¥bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate.{bat}
{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Software AG_directory|Zip_file}
-importFile full_path_to_{migrate.dat|migrate{901|951|960}sbs.dat}
-silent true
```

Command Central のアップグレードの完了

9.6 または 9.7 からのアップグレード: JAAS の信頼できる認証の復元

JAAS 設定を移行する場合は、以下の手順に従って、信頼できる認証を復元します。

1. 9.8_Software AG_directory¥profiles¥CCE¥configuration¥security ディレクトリに移動して、/ jaas.config ファイルを開きます。
2. 以下のエントリを Default ログインコンテキストに追加します。

```
com.softwareag.security.idp.saml.lm.JMXDelegatedAuthLoginModule sufficient;
com.softwareag.security.idp.saml.lm.SAMLAAssertIssuerLoginModule optional;
```

Command CentralNERV 設定の更新

9.8_Software AG_directory¥profiles¥CCE¥configuration ¥com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリに移動して、com.softwareag.platform.eda.nerv.properties ファイルを開きます。JMS プロバイダの参照が 9.8 JMS プロバイダをポイントしていない場合は、ポイントするように更新します。9.8 インストールをポイントするように、ファイルシステムのパスを更新します。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

12 Platform Manager のアップグレードの完了

- 9.0 または 9.5 からのアップグレード: Platform Manager のアップグレードの完了 92
- 9.6 または 9.7 からのアップグレード: Platform Manager のアップグレードの完了 94

9.0 または 9.5 からのアップグレード: Platform Manager のアップグレードの完了

データを移行する前に

古い Platform Manager をシャットダウンしていることを確認します。

Platform Manager インフラストラクチャの移行

1. 次のように HTTP ポート設定を移行します。
 - a. `old_Software AG_directory¥profiles¥CCE¥configuration ¥com.softwareag.platform.config.propsloader` ディレクトリに移動します。
`com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties` ファイルが 1 つしかない場合は、そのファイルを開きます。その名前の複数のファイルがある場合は、9.8 でデフォルトポートを指定しているファイルを開きます。

9.8 インストールで同じディレクトリに移動し、`com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties` ファイルを開きます。2 つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.8 の値に上書きコピーします。
 - b. 前述の古いディレクトリで、HTTP ポートについてのその他の `com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties` ファイルがあるかどうか確認します。それらすべてのファイルを 9.8 のディレクトリにコピーし、コピーしたそれぞれのファイルに以下の要素を追加します。
 - `alias=unique_identifier`。この Software AG 固有の属性は、Platform Manager で設定を表示するときに、各コネクタを一意に識別します。上記で設定したデフォルトの HTTP コネクタの `alias` は `defaultHttp` です。その `alias` を基に一意のサフィックスを追加して、各コネクタの `alias` を作成します (`alias=defaultHttp2`、`alias=defaultHttp3` など)。
 - `enabled=true`。この Software AG 固有の属性および値は、このコネクタを起動するために必要です。
2. 前の手順を繰り返して HTTPS ポート設定を移行します。ただし、`com.softwareag.catalina.connector.https.pid-port.properties` ファイルを使用し、`alias=defaultHttps` をデフォルトの HTTPS コネクタに追加します。
3. Platform Manager Java サービスラッパーをカスタマイズしている場合は、古い `wrapper_conf` または `custom_wrapper.conf` ファイルから 9.8 の `custom_wrapper.conf` ファイルにカスタマイズをコピーします。ファイルは `Software AG_directory¥profiles¥SPM¥configuration` ディレクトリにあります。
4. 以下の各ケースで、古いインストールと 9.8 インストール内の指示されたディレクトリ内のファイルを開きます。古いファイル内の値が 9.8 ファイル内の対応する値と異なる場合は、古いほうの値を 9.8 の値に上書きコピーします。さらに、9.8 ファイル内のファイルシステムのパスを更新して、9.8 インストールをポイントするように設定します。

設定	古い Software AG ディレクトリと 9.8 Software AG ディレクトリ内のファイル名
Debug	¥profiles¥SPM¥configuration¥com.softwareag.platform.config. propsloadecom.softwareag.platform.debug.properties
JMX ポート	¥com.softwareag.jmx.connector.pid-port.properties
セキュリティ認 証	¥com.softwareag.security.authz.pid.properties
セキュリティ LDAP	¥com.softwareag.security.ldap.pid.properties
シングルサイン オンサービス	¥com.softwareag.sso.pid.properties
SSH	¥com.softwareag.sshd.pid.properties
ウォッチドッグ	¥com.softwareag.config.watchdog.pid.properties
ジャーナルロ ガー	¥profiles¥SPM¥configuration¥logging¥log_config_.xml
パスワードマ ネージャ	¥profiles¥CCE¥configuration¥security¥passman¥scPassMan.config.xml

- old_Software AG_directory¥common¥conf ディレクトリに移動します。 user.txt、 roles.txt およ
び groups.txt ファイルを 9.8_Software AG_directory¥profiles¥SPM¥configuration¥security ディ
レクトリにコピーします。
- 以下の各設定タイプで、古いインストールの指示されたディレクトリから、9.8 インストールの同じ
ディレクトリにファイルをコピーします。 次に、コピーした (9.8) ファイルを開き、9.8 インストー
ルをポイントするようにファイルシステムのパスを更新します。

設定	古い Software AG ディレクトリと 9.8 Software AG ディレクトリ内のファイル名
JAAS	¥profiles¥SPM¥configuration¥jaas.config file
パスワードマ ネージャ	¥profiles¥SPM¥configuration¥security¥passman¥defaultPassStore.dat and mpw.dat

Platform Manager NERV 設定の更新

9.8_Software AG_directory¥profiles¥SPM¥configuration
¥com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリに移動し
て、com.softwareag.platform.eda.nerv.properties ファイルを開きます。JMS プロバイダの参照が
9.8 JMS プロバイダをポイントしていない場合は、ポイントするように更新します。9.8 インストールを
ポイントするように、ファイルシステムのパスを更新します。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレー
ドタスクを完了します。

9.6 または 9.7 からのアップグレード: Platform Manager のアップグレードの完了

データを移行する前に

古い Platform Manager をシャットダウンしていることを確認します。

Platform Manager インフラストラクチャの移行

1. Platform Manager Java サービスラッパーをカスタマイズしている場合は、古い wrapper_conf または custom_wrapper.conf ファイルから 9.8 の custom_wrapper.conf ファイルにカスタマイズをコピーします。ファイルは Software AG_directory¥profiles¥SPM¥configuration ディレクトリにあります。
2. 以下の各ケースで、古いインストールと 9.8 インストール内の指示されたディレクトリ内のファイルを開きます。古いファイル内の値が 9.8 ファイル内の対応する値と異なる場合は、古いほうの値を 9.8 の値に上書きコピーします。さらに、9.8 ファイル内のファイルシステムのパスを更新して、9.8 インストールをポイントするように設定します。

設定	古い Software AG ディレクトリと 9.8 Software AG ディレクトリ内のファイル名
Debug	¥profiles¥SPM¥configuration¥com.softwareag.platform.config.propsloadecom.softwareag.platform.debug.properties
JMX ポート	¥com.softwareag.jmx.connector.pid-port.properties
セキュリティ認証	¥com.softwareag.security.authz.pid.properties
セキュリティ LDAP	¥com.softwareag.security.ldap.pid.properties

設定	古い Software AG ディレクトリと 9.8 Software AG ディレクトリ内のファイル名
シングルサイン オンサービス	¥com.softwareag.sso.pid.properties
SSH	¥com.softwareag.sshd.pid.properties
ウォッチドッグ	¥com.softwareag.config.watchdog.pid.properties
ジャーナルロ ガー	¥profiles¥SPM¥configuration¥logging¥log_config_.xml

- 以下の各ケースで、指示されたディレクトリのファイルを開き、9.8 インストールをポイントするようにファイルシステムのパスを更新します。

設定	9.8 Software AG ディレクトリ内のファイル名
JAAS	¥profiles¥SPM¥configuration¥jaas.config
パスワードマ ネージャ	¥profiles¥SPM¥configuration¥security¥passman¥defaultPassStore.dat and mpw.dat

Platform Manager 移行ユーティリティの実行

Platform Manager 移行ユーティリティは、以下の項目を移行できます。

- パスワードマネージャの設定とデータ
- ユーザ、役割、およびグループ
- JAAS およびポートの設定

移行ユーティリティの動作の概要については、[30 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。

カスタムの移行の実行

- 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥PlatformManager¥migrate¥bin ディレクトリに移動し、コマンド migrate. {bat|} を実行します。
- 以下のいずれかへの完全パスを尋ねられます。
 - 古い Platform Manager インストールを含む Software AG ディレクトリ (たとえば、C: ¥old_Software AG_directory または /opt/old_Software AG_directory)
 - 以前に作成した圧縮ファイル
- 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「N」と入力します。

4. ユーザ、役割、グループ、JAAS 設定、パスワードマネージャのデータを移行するかどうかを尋ねられます。
5. HTTP および HTTPS ポート設定を移行するかどうかを尋ねられます。
6. 設定をエクスポートするかどうかを尋ねられます。このセッションから設定をインポートすることでその他の移行を実行する場合は、「Y」を入力します。それ以外の場合は、「N」を入力します。
7. 移行を開始するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力すると、選択したデータが移行されます。

インポートした設定を使用した移行

インポートした設定は、以下から取得できます。

- カスタムの移行からエクスポートした設定。これらの設定は、migrate.dat というファイルに保存されます。このファイルは、カスタムの移行を実行した 9.8_Software AG_directory¥PlatformManager¥migrate ディレクトリに保存されます。データの移行先にする Platform Manager 9.8 インストールのホストマシンで、任意のディレクトリに migrate.dat ファイルをコピーします。
- Platform Manager で提供されるデフォルトの移行の設定。古いリリースごとに、設定が 9.8_Software AG_directory¥PlatformManager¥migrate ディレクトリ内の migratereleasesbs.dat というファイルに保存されます。この設定は、[95 ページの「Platform Manager 移行ユーティリティの実行」](#) にリストされたデータを移行するように移行ユーティリティに通知します。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する)

1. 9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥PlatformManager¥migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate.{bat} を実行します。
2. 古い Platform Manager インストールを含む Software AG ディレクトリまたは以前に作成した圧縮ファイルへの完全パスを尋ねられます。
3. 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「Y」と入力し、プロンプトが表示されたら、migrate.dat ファイルまたは migrate{901|951|960}sbs.dat ファイルへの完全パスを指定します。

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない)

9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥PlatformManager¥migrate ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate.{bat}
{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Software AG_directory|Zip_file}
-importFile full_path_to_{migrate.dat|migrate{960|970}sbs.dat}
-silent true
```

Platform Manager のアップグレードの完了

JAAS の信頼できる認証の復元

JAAS 設定を移行する場合は、以下の手順に従って、信頼できる認証を復元します。

1. 9.8_Software AG_directory¥profiles¥SPM¥configuration¥security ディレクトリに移動して、/jaas.config ファイルを開きます。
2. 以下のエントリを Default ログインコンテキストに追加します。

```
com.softwareag.security.idp.saml.lm.SAMLAssertValidatorLoginModule sufficient;  
com.softwareag.security.idp.saml.lm.JMXDelegatedAuthLoginModule sufficient;  
com.softwareag.security.idp.saml.lm.SAMLAssertIssuerLoginModule optional;
```

Platform ManagerNERV 設定の更新

9.8_Software AG_directory¥profiles¥SPM¥configuration ¥com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリに移動して、com.softwareag.platform.eda.nerv.properties ファイルを開きます。JMS プロバイダの参照が 9.8 JMS プロバイダをポイントしていない場合は、ポイントするように更新します。9.8 インストールをポイントするように、ファイルシステムのパスを更新します。

最終的なアップグレードタスクの完了

[118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」](#) の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

13 API-Portal および CentraSite のアップグレードの完了

■ API-Portal のアップグレードの完了	100
■ CentraSite のアップグレードの完了	101

API-Portal のアップグレードの完了

1. API-Portal 9.8 をクラスタ化された高可用性設定でインストールした場合は、すべてのノードが実行中で、Zookeeper アンサンブルにアクセス可能であることを確認します。次に、REST サービスを呼び出して、以下のようにすべてのノードを親ノードに登録します。ロードバランサポートのデフォルトは 18002 です。

パラメータ	値
エンドポイント	http://load_balancer_host:load_balancer_port/acc/rest/nodes/
メソッドタイプ	POST
コンテンツタイプ	application/json
ペイロード	{ "nodename": "host_name", "hostname": "host_name", "port": "cloud_agent_port", "username": "Cloud", "password": "g3h31m"} }

2. 9.8 API-Portal Cloud Controller を起動します。
3. 次のコマンドを実行します。


```
acc> startall
```
4. 以下のコマンドを実行して、以前に作成したバックアップファイルから古いマスターテナントを API-Portal 9.8 に復元します。


```
acc> set acc config backup.restore.tenant.app.types = com.aris.umcadmin.  
y-umcadmin-run-prod  
acc> set acc config backup.restore.tenant.app.type.names = umc  
acc> restore tenant master from full_path_to_backup_file  
username= your_user_name password=your_password
```
5. このマニュアルの以前の章で、API-Portal のテナントのリストを生成しています。リストの古いテナントごとに (デフォルトテナントおよびマスターテナントを除く)、以下のコマンドを実行して API-Portal 9.8 で対応するテナントを作成します。


```
cmd> cd 9.8_Software_AG_directory¥API_Portal¥server¥bin¥work¥  
work_apiportalbundle_m¥tools¥bin  
cmd> y-tenantmgmt.bat -s http://load_balancer_host:load_balancer_port  
-t tenant_name createTenant  
-u your_user_name -p your_password
```
6. ユーザ管理コンポーネント (http://host:port/umc) で、作成したテナントごとのライセンスをインポートします。
7. 9.8 API-Portal Cloud Controller で、以下のコマンドを実行します。


```
acc> stop apiportalbundle_m  
acc> start apiportalbundle_m
```

- 作成した新しいテナントごとに、以下のコマンドを実行して、以前に作成したバックアップファイルから対応する古いテナントのデータを API-Portal 9.8 に復元します。各ファイルのファイル拡張子は .acb です。

重要: 復元処理中はテナントで作業できないことを API-Portal ユーザに知らせます。

重要: 新しいテナントに何らかのデータが含まれている場合、そのデータは古いテナントから復元するデータに置換されます。

```
acc> set acc config backup.restore.tenant.app.types = UMC, ABS, ADS, ECP
acc> restore tenant tenant_name from full_path_to_backup_file
username=your_user_name password=your_password
```

- 以下のコマンドを実行します。

```
acc> stop apiportalbundle_m
acc> start apiportalbundle_m
```

- API-Portal 9.8 を古い API-Portal と同じマシンにインストールした場合は、以下のコマンドを実行します。

```
acc> stopall
```

CentraSite のアップグレードの完了

データを移行する前に

- 古い CentraSite と CentraSite 9.8 がシャットダウンしていることを確認します。
- 古い CentraSite の設定データと、古いレジストリリポジトリのアセットを、圧縮ファイルにエクスポートします。古いマシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、old_Software AG_directory/CentraSite/utilities ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
sbsExport.{cmd|sh} /full_path_to_Zip_file
```

このコマンドの例: ./sbsExport.sh /tmp/sbs_cs82_data.zip

- 新旧の CentraSite インストールが異なるマシン上にある場合は、圧縮ファイルを 9.8 マシン上の任意のディレクトリにコピーします。

データの移行

CentraSite スクリプトは、古い CentraSite の設定データと、古いレジストリリポジトリのアセットを、新しい CentraSite インストールに移行します。また、古いレジストリリポジトリの LDAP 設定を、新しい CentraSite JAAS 設定に変換し、移行します。

- 先ほど作成した圧縮ファイルから、設定データとアセットをインポートします。9.8 マシンでコマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory/CentraSite/utilities ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
sbsImport.{cmd|sh} /full_path_to_Zip_file
```

このコマンドの例: `./sbsImport.sh /tmp/sbs_cs82_data.zip`

2. CentraSite 9.8 を起動します。
3. 次のコマンドを実行して、LDAP 設定を新しい JAAS 設定に変換し、移行します。

```
CentraSiteCommand.{cmd|sh} generate JaasConfiguration -url CentraSite_9.8_URL
-user CentraSite_9.8_admin_user -password password
```

このスクリプトは、古い LDAP 設定に対応する JAAS LoginModule エントリを生成し、9.8_Software AG_directory/CentraSite/profiles/CTP/configuration ディレクトリ内の `jaas.config` ファイルにエントリを保存します。各 LDAP ドメインに対して、このスクリプトは内部 (CentraSite) プロパティを外部 (LDAP) プロパティにマッピングするユーザおよびグループファイルを作成し、9.8_Software AG_directory/CentraSite/profiles/CTP/configuration/com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリ内にファイルを保存します。

4. CentraSite でシングルサインオンを使用する場合は、以下の手順に従います。
 - a. 新旧の Software AG_directory/CentraSite/profiles/CTP/configuration ディレクトリ内の `jaas.config` ファイルを開きます。古いファイルから 9.8 ファイルに、以下をコピーします。
 - 受信 HTTP ヘッダーからユーザ ID を抽出する `ServletHeaderLoginModule`
 - `SimpleNameMappingLoginModule` (使用している場合)
 - 抽出されたユーザ ID の処理に使用しているその他のエントリ

9.8 `jaas.config` ファイルは、次のように表示されます。

```
CentraSite {
  com.softwareag.security.jaas.login.internal.InternalLoginModule sufficient
  の動作
  com.softwareag.security.sin.is.ldap.lm.LDAPLoginModule sufficient
  の動作
  com.softwareag.security.jaas.login.modules.ServletHeaderLoginModule
  required
  の動作
  com.softwareag.security.jaas.login.modules.SimpleNameMappingLoginModule
  required
  の動作
  com.softwareag.security.sin.is.ldap.lm.LDAPLoginModule required
  の動作
};
```

初期 `InternalLoginModule` は、通常、INTERNAL ドメインのユーザ専用であり、初期 `LDAPLoginModule` は、シングルサインオンを使用せず直接ログインする LDAP ユーザ用です。シングルサインオンログインのみが必要な場合は、初期 `InternalLoginModule` および `LDAPLoginModule` を削除することができます。

- b. LDAP 設定を設定し、LDAP 経由で抽出したユーザ ID を解決します。生成された LDAP ログインモジュールを変更して、シングルサインオン関連のオプション (技術ユーザなど) を有効にします。必要な場合は、LDAP シングルサインオンの技術ユーザクレデンシャルを適用します。

アップグレードの完了

1. 古い CentraSite の準備でメモに書きとめた CentraSite Control の設定を変更します。

2. CentraSite Control の GUI 拡張であるプラグインを古い CentraSite インストールにインストールしていた場合は、CentraSite 9.8 インストールにインストールします。
3. API-Portal を CentraSite と共に使用する場合は、古いリリースで作成したすべての API-Portal インスタンスを API-Portal 9.8 に再パブリッシュします。手順については、CentraSite のマニュアルを参照してください。
4. 8.2 からのアップグレード: CentraSite 9.8 で CentraSite 8.2 からの ApplinX オブジェクトタイプインスタンスを使用する場合は、古い CentraSite の準備でメモに書きとめた定義を使用してこれらを手動で再作成します。
5. [118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」](#) の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

14 Mobile のアップグレードの完了

- 9.7 からのアップグレード: Mobile Designer のアップグレードの完了 106
- Mobile Administrator のアップグレードの完了 106

9.7 からのアップグレード: Mobile Designer のアップグレードの完了

これまで Software AG Designer の [モバイル開発] パースペクティブを使用してアプリケーションを作成しており、今後もそのようにする場合、またはこれまでは Mobile Designer を使用してアプリケーションを作成していたが、今後は Software AG Designer の [モバイル開発] パースペクティブを使用する場合は、以下の手順に従って、MOBILE_DESIGNER 環境変数を削除します。

これまで Mobile Designer を使用してアプリケーションを作成しており、今後もそのようにする場合、および引き続き既存のビルド環境 (つまり Software AG Designer 以外の IDE や Jenkins) も使用する場合は、以下の手順に従って MOBILE_DESIGNER 環境変数を削除します。次に、Mobile Designer Ant ターゲットを呼び出すときにプロパティ `-Denv.MOBILE_DESIGNER=full_path_to_Mobile_Designer` を Ant に渡します (たとえば「`ant -Denv.MOBILE_DESIGNER=C:\SoftwareAG\MobileDesigner +Multi-Build`」を入力します)。

MOBILE_DESIGNER 環境変数を削除するには、以下の手順に従います。

システム	ステップ
Windows	[コントロール パネル] に移動し、[システム]、[システムの詳細設定] をクリックします。[詳細設定] タブで [環境変数] をクリックし、MOBILE_DESIGNER 環境変数を削除します。次に、システムを再起動します。
Mac OS X	.bash_profile、/etc/launchd.conf ファイルまたはその両方から MOBILE_DESIGNER 環境変数を削除します。環境変数が含まれるファイル (複数の場合あり) は、使用している Mac OS X のバージョン、および加えた変更内容によって異なります。次に、システムを再起動します。

Mobile Administrator のアップグレードの完了

概要

Mobile Administrator のアップグレードを完了するには、以下の手順に従います。

- Mobile Administrator アップデータを実行し、Mobile Administrator ソースコードをアップグレードして Mobile Administrator データベースを移行します。
- 使用例に必要なすべての機能が設定されていることを確認します。
- 古い Mobile Administrator で使用していたビルドノードを更新します。
- App Store Client を更新します。

アップデータの実行と設定の確認

1. Software AG_directory/MobileAdministrator ディレクトリに移動し、./update.sh コマンドを root で実行してアップデータを実行します。
2. 同じディレクトリで、/etc/init.d/appfresh-mobile start コマンドを実行して Mobile Administrator を起動します。
3. Mobile Administrator で、[Settings] をクリックして、[Sites] をクリックし、ドメインをクリックします。ドメインページで、[Configuration Assistant] をクリックします。必要な機能がすべて設定されていることを確認します。必要な場合は、手順に従って、設定されていない機能を設定します。この手順をドメインごとに繰り返します。

ビルドノードの更新

1. 古い Mobile Administrator で Mac OS のビルドノードを使用している場合は、以下の手順を実行してビルドノードを更新します。
 - a. https://Mobile Administrator_URL/build_nodes の [Mobile Administrator] > [Build Node] ページに移動します。appfresh-build-node-version.zip ファイルをダウンロードして、任意のディレクトリにファイルを解凍します。
 - b. ビルドノードアプリケーションを起動します。[Install] タブの [Build Node] フィールドで、表示されているビルドノードのバージョンがダウンロードしたビルドノードのバージョン (appfresh-build-node-version.zip) と一致していることを確認します。
2. 古い Mobile Administrator で Windows 8 のビルドノードを使用している場合は、以下の手順を実行してビルドノードを更新します。
 - a. Windows コントロールパネルに移動し、以前のビルドノードをアンインストールします。
 - b. https://Mobile Administrator_URL/build_nodes の [Mobile Administrator] > [Build Node] ページに移動します。AppFreshBuildNode-version.exe ファイルをダウンロードし、実行します。
 - c. ビルドノードアプリケーションを起動します。[Build Node] タブで、[Start] をクリックしてビルドノードを起動します。

App Store Client の更新

1. https://Mobile Administrator_URL/apps/appfresh-mobile-client/build ページに移動します。
2. [Build Configuration] タブで、クライアントを更新するプラットフォームを選択し、[Launch Selected Build Configs] をクリックして、App Store Client のビルドジョブを開始します。
3. [Build Jobs] タブで、ビルドジョブが正常に完了したことを確認します。該当するビルドノードは、https://Mobile Administrator_URL/build_nodes ページに表示されます。表示されない場合は、ビルドジョブをクリックして、問題の診断に役立つ詳細を表示します。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

15 OneData のアップグレードの完了

■ OneData 移行ユーティリティの実行	110
■ Java サービスラッパーへのカスタマイズの移行	110
■ 8.4 からのアップグレード: 新しいログ記録方式の有効化	110
■ 最終的なアップグレードタスクの完了	110

OneData 移行ユーティリティの実行

OneData 移行ユーティリティは設定データを移行します。

1. 古い OneData をシャットダウンしていることを確認します。
2. 9.8 マシンで、コマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥profiles ¥ODE¥bin¥migrate ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate.{bat|sh}
{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Software AG_directory|Zip_file}
-silent true
```

データを移行する前に、ユーティリティは 9.8_Software AG_directory¥profiles¥ODE¥bin ¥onedata¥config ディレクトリ内の 9.8 設定データを含むファイルをバックアップします。バックアップファイルには、.bck という拡張子が付いています。

Java サービスラッパーへのカスタマイズの移行

古い OneData Java サービスラッパーをカスタマイズしている場合は、古い wrapper_conf または custom_wrapper.conf ファイルから 9.8 の custom_wrapper.conf ファイルにカスタマイズをコピーします。これらのファイルは Software AG_directory¥profiles¥ODE¥configuration ディレクトリにあります。

8.4 からのアップグレード: 新しいログ記録方式の有効化

OneData 8.4 では、アクションのログエントリは、複数のファイルに分散している可能性があります。OneData 9.0 以降では、デバッグを向上するため、アクションのログエントリは単一ファイルに書き込まれます。OneData モジュールに対して、新しいログ記録方式を有効にする必要があります。9.8_Software AG_directory¥profiles¥ODE¥bin¥onedata¥config ディレクトリにある sample_log4j_config.txt ファイルの例に従ってください。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

16 Presto のアップグレードの完了

■ 概要	112
■ Presto リポジトリの設定	112
■ Presto の設定の更新と拡張機能のコピー	113
■ 3.7 または 3.8 からのアップグレード: Integrated MashZone Server と RTBS Server の設定、および MashZone フィードのアップグレード	114
■ アップグレードコマンドの実行	114
■ 3.6 または 3.7 からのアップグレード: RAQL クエリーを使用するマッシュアップの更新	115
■ スナップショットリポジトリ接続情報の更新	115
■ 最終的なアップグレードタスクの完了	116

概要

この章では、Presto 3.6、3.7 または 3.8 から Presto 3.9 へのアップグレードを完了する方法について説明します。Presto 3.6 以前のリリースからアップグレードする場合は、Software AG Global Consulting Services までご連絡ください。

Presto は、マッシュアップ、マッシュブル、アプリケーション、ワークスペースなどのすべてのデータを Presto リポジトリに保存します。アップグレードするには、Presto 3.9 を設定して、古い Presto リポジトリを使用します。古い Presto の機能に拡張機能を展開している場合 (マッシュアップ内でスクリプトを使用して、スクリプトをファイルに保存している場合など) は、Presto 3.9 インストールに拡張機能をコピーする必要があります。

Presto リポジトリの設定

埋め込みの Derby データベースを使用する場合のリポジトリの設定

古い Presto リポジトリに埋め込みの Derby データベースを使用する場合は、以下の手順に従います。

1. Presto 3.9 には、prestorepository ディレクトリ内にあらかじめ用意された Derby Presto リポジトリが付属しています。9.8_Software AG_directory/Presto/apache-tomee-jaxrs/bin に移動して、prestorepository ディレクトリの名前を変更します (例: prestorepository_orig)。
2. 3.7 または 3.8 からのアップグレード: old_Software AG_directory/Presto/apache-tomee-jaxrs/bin ディレクトリに移動して、prestorepository ディレクトリと mashzonerepository ディレクトリを 9.8_Software AG_directory/Presto/apache-tomee-jaxrs/bin ディレクトリにコピーします。
3. 3.6 からのアップグレード: Presto3.6.1/Presto-3.6.1-20130930/prestorepository/derby ディレクトリに移動して、prestorepository ディレクトリを 9.8_Software AG_directory/Presto/apache-tomee-jaxrs/bin ディレクトリにコピーします。

その他のデータベースを使用する場合のリポジトリの設定

古い Presto リポジトリで MySQL、Oracle、PostGres、SQL Server を使用していた場合は、以下の手順に従います。

1. old_Software AG_directory/Presto/apache-tomee-jaxrs/lib ディレクトリに移動し、データベースの JDBC ドライバの jar ファイルを Presto 3.9 インストールの同じディレクトリにコピーします。

データベース	JDBC ドライバの jar ファイル
MySQL	mysql-connector-java-5.1.31.jar
Oracle	ojdbc6.jar

データベース	JDBC ドライバの jar ファイル
PostGres	postgresql-9.2.1004.jdbc4.jar
SQL Server	jtds-1.3.1.jar

2. 古い Presto で MySQL、Oracle、SQL Server を使用していた場合は、以下の手順に従います。
 - a. 9.8_Software AG_directory/Presto/apache-tomee-jaxrs/webapps/presto/WEB-INF/lib ディレクトリに移動し、jackbe-presto-rds-postgre-derby-3.9.jar ファイルを削除します。
 - b. 9.8_Software AG_directory/Presto/prestorepository ディレクトリに移動し、jackbe-presto-rds-oracle-mysql-mssql-3.9.jar ファイルを 9.8_Software AG_directory/Presto/apache-tomee-jaxrs/webapps/presto/WEB-INF/lib ディレクトリにコピーします。
3. 3.7 または 3.8 からのアップグレード: old_Software AG_directory/Presto/apache-tomee/jaxrs/conf ディレクトリに移動し、tomee.xml ファイルを Presto 3.9 インストールの同じディレクトリにコピーします。
4. 3.6 からのアップグレード: 既存のリポジトリを使用するように Presto 3.9 を設定します。手順については、Presto 3.9 の Presto 管理マニュアルで「Getting Started with Presto」、次に「Move the Presto and Mashzone Repositories to a Robust Database Solution」を参照してください。手順 1~4 はスキップし、手順 5 から開始します。

Presto の設定の更新と拡張機能のコピー

ほとんどの Presto 設定は、Presto リポジトリに保存されています。この節では、リポジトリに保存されていない古い設定 (古い Presto で展開したカスタムセキュリティプロファイルなどの拡張機能など) をコピーする方法について説明します。手順は、古い Presto で外部設定ディレクトリを使用していたかどうかによって異なります。

外部設定ディレクトリを使用していた場合の更新方法

1. Presto 3.9 をホストするアプリケーションサーバのクラスパスを更新して、外部設定ディレクトリと任意のサブディレクトリで動作するように設定します。手順については、Presto 管理マニュアルの外部設定ディレクトリの設定に関するトピックを参照してください。
2. 以下に示した古い設定ファイル内で行った変更を、古い Presto から Presto 3.9 の対応するファイルに手動で移行します。設定が複雑なため、多くのテキストエディタで提供されている差異検出ツールを使用することをお勧めします。
 - Presto 管理マニュアルの設定ファイルに関するトピックに記載されているすべてのファイル
 - 外部設定ディレクトリにある userRepositoryLdap.properties ファイル

外部設定ディレクトリを使用していなかった場合の更新方法

1. 展開した拡張機能を、古い Presto から Presto 3.9 の対応するディレクトリにコピーします。コピーが必要な拡張機能の一覧については、Presto 管理マニュアルを参照してください。
2. 以下に示した古い設定ファイル内で行った変更を、古い Presto から Presto 3.9 の対応するファイルに手動で移行します。設定が複雑なため、多くのテキストエディタで提供されている差異検出ツールを使用することをお勧めします。
 - Presto 管理マニュアルの設定ファイルに関する節に記載されているすべてのファイル
 - old_Software AG_directory/Presto/webapps/presto/WEB-INF/classes ディレクトリにある userRepositoryLdap.properties ファイル
3. データベースマッシュアップルを使用していた場合は、old_Software AG_directory/Presto/apache-tomee-jaxrs/presto/WEB-INF/config/db/jdbc ディレクトリに移動します。データベースドライバの jar ファイルを、Presto 3.9 インストールの同じディレクトリにコピーします。

3.7 または 3.8 からのアップグレード: Integrated MashZone Server と RTBS Server の設定、および MashZone フィードのアップグレード

Presto の Integrated MashZone Server は、追加データを保存します。以下の手順に従って、データを Presto 3.9 インストールにコピーします。

1. old_Software AG_directory/Presto/mashzone/data/resources ディレクトリに移動して、ファイルを Presto 3.9 インストールの同じディレクトリにコピーします。
2. old_Software AG_directory/Presto/mashzone/data/jdbcdrivers ディレクトリに移動して、ファイルを Presto 3.9 インストールの同じディレクトリにコピーします。
3. Presto ハブの Admin Console に移動します。[MashZone] セクションを展開し、[Server Settings] をクリックして [Resources] タブをクリックします。リソースディレクトリへのパスを確認します。パスが古い Presto インストールのディレクトリをポイントしている場合は、それらのディレクトリを Presto 3.9 インストールにコピーし、MashZone Administration 内のパスを更新して、Presto 3.8 インストールの正しい場所をポイントするように設定します。

アップグレードコマンドの実行

Presto サーバを起動します。コマンドウィンドウまたはシェルを開いて、9.8_Software AG_directory¥Presto¥prestocli¥bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
.¥padmin.bat runRequestFile -u Administrator -c -w manage
-f ..¥..¥upgrade¥3.9¥upgrade_3.9.0.jump.txt
.¥padmin.bat importPolicy -u Administrator -w manage
-f ..¥..¥upgrade¥3.9¥Presto_RO_Policy.xml
```

3.6 または 3.7 からのアップグレード: RAQL クエリーを使用するマッシュアップの更新

Presto 3.8 以降には、マッシュアップで使用される RAQL クエリー構文への大幅な変更と追加が含まれています。Presto 3.7 以前のマッシュアップがある場合、Presto 3.9 で実行するように RAQL クエリーを使用するマッシュアップを更新する必要があります。また、必要に応じて新しい RAQL クエリー構文を利用するようにその他のマッシュアップを更新してください。詳細については、Presto マニュアル内の古い RAQL クエリーから 3.9 への移行に関するトピックを参照してください。

スナップショットリポジトリ接続情報の更新

古い Presto でスナップショットを使用し、別のスナップショットリポジトリにデータを保存していた場合は、以下の手順に従います。

1. Presto 3.9 Admin Console を開きます。
2. 古いスナップショットリポジトリで使用していた JDBC ドライバが、古い Presto リポジトリで使用していたドライバと異なる場合は、old_Software AG_directory/Presto/apache-tomee-jaxrs/lib ディレクトリに移動します。スナップショットリポジトリが含まれるデータベースの JDBC ドライバの jar ファイルを、Presto 3.9 インストール内の同じディレクトリ内の同じファイルに上書きコピーします。

データベース	JDBC ドライバの jar ファイル
Derby	derby-embedded-10.5.3.jar
MySQL	mysql-connector-java-5.1.31.jar
Oracle	ojdbc6.jar
PostGres	postgresql-9.2.1004.jdbc4.jar
SQL Server	jtds-1.3.1.jar

3. 次のように、スナップショット 3.9 の設定を更新して、スナップショット 3.9 リポジトリをポイントするように設定します。
 - a. **[JDBC Configuration]** メニューを開き、**[Datasources]**、**[SnapshotDataSource]** の順にクリックして、**[Edit]** をクリックします。
 - b. 必要に応じて、設定プロパティを編集します。プロパティの詳細については、Presto 管理マニュアルのデータソースの追加に関する節を参照してください。
 - c. **[Save]** をクリックします。

最終的なアップグレードタスクの完了

118 ページの「全製品の最終的なアップグレードタスクの完了」の手順に従って、最終的なアップグレードタスクを完了します。

17 すべての製品の最終的なアップグレードタスクの完了、およびトラブルシューティング

■ 全製品の最終的なアップグレードタスクの完了	118
■ トラブルシューティング	118

全製品の最終的なアップグレードタスクの完了

- 9.8 製品マニュアルの記載に従って製品を設定します。
- 古い製品とは別のマシンに 9.8 製品をインストールした場合は、9.8 製品、製品間の接続、データベーステーブルでホスト名を更新してください。このマニュアルではホスト名を更新するさまざまな場所を示していますが、製品マニュアルの指示に従って 9.8 製品を設定するときに、正しいホスト名を指定していることも確認してください。また 9.8 設定ファイルの絶対パスが有効な場所をポイントしていることを確認するか、これらを新しいマシンに合わせて正しい値に変更してください。マシンに異なるオペレーティングシステムまたはハードウェアがある場合、JVM 設定が正しいことを確認してください。
- お使いの製品の重要な情報、既知の問題、修正、修正に組み込まれていない解決済みの問題および使用上の注意については、以前のリリースから 9.8 リリースまでのリリースごとの製品の README を参照してください。README は、Software AG Documentation websiteから入手できます。
- 製品の動作、サービス、パラメータ、プロパティ、API、マニュアルおよび用語における変更については、製品の README を参照してください。これらの変更を反映するために、製品ファイルまたはアセットの変更が必要になることがあります。9.8 の README では、変更をリストしている節の内容は累積的なものであり、リリース 9.6、9.7 および 9.8 に関する情報が含まれています。以前のリリースから 9.8 リリースまでのリリースごとの製品の README を参照してください。たとえば、リリース 8.2 からアップグレードする場合は、リリース 8.2、9.0、9.5 および 9.8 の製品の README を参照してください。README は、Software AG Documentation websiteから入手できます。

メモ: README には、廃止された項目 (サービス、パラメータ、プロパティ、API など) がリストされています。廃止された項目は、引き続き Software AG でサポートされますが、将来のいずれかの時点で製品から削除される見込みです。Software AG では、開発する新しい機能およびソリューションで、廃止された項目を使用しないことをお勧めします。

- 新機能の詳細については、以前のリリースから 9.8 リリースまでのリリースごとの製品のリリースノート参照してください。リリースノートは、Software AG Documentation websiteから入手できます。
- インストールしたら、必要に応じて新旧の両製品を自動的に起動しないように、製品の Windows サービスを [手動] に設定するか、UNIX デーモンを起動するスクリプトを無効にします。新しい環境が整ったら、古い製品を停止した後に、新しい製品の運用の開始時に、Windows サービスを [自動] に再設定するか、UNIX スクリプトを再び有効にすることができます。

トラブルシューティング

アップグレード時にエラーが発生した場合、以下のトラブルシューティング方法を試してください。

- ログファイルを確認します。

ログのタイプ	[場所]
インストールとアンインストール	9.8_Software AG_directory¥install¥logs ディレクトリ
製品	製品ファイル構造内の logs ディレクトリ、または 9.8_Software AG_directory¥profiles¥product¥logs ディレクトリ
データの移行	9.8_Software AG_directory¥install¥logs ディレクトリ、およびアップグレード手順で示された製品ディレクトリ
データベースの移行	9.8_Software AG_directory¥common¥db¥logs ディレクトリ

- Empower Product Support Website で [Knowledge Center](#) に移動し、「アップグレード」など、キーワードを使用して検索します。
- [webMethods Error Message Reference](#) でエラーメッセージを参照します。
- [Software AG 開発者コミュニティ](#) に移動して、アップグレードディスカッションフォーラムに参加します。

上記の方法で問題を解決できない場合、Software AG Global Support までご連絡ください。